
地域福祉に関するアンケート調査報告書

令和5年3月

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

目 次

1. 調査概要

(1) 調査目的	3
(2) 調査対象者	3
(3) 調査対象者の類型及び抽出方法	3
(4) 実施方法	3
(5) 実施期間	3
(6) 回収結果	4
(7) 調査データについて	4

2. 調査結果

(1) あなたご自身のことについて	
問1 性別	5
問2 年齢	5
問3 職業	6
問4 世帯構成	6
問5 居住地区	7
問6 居住（通勤、通学）年数	7
(2) お住いの地域のことについて	
問7 地域の範囲の認識	8
問8 ご近所の方との関係	9
問9 住民同士の支え合いや助け合いの必要性	10
問10 ご近所づきあいの中で手助けしてほしいこと	11
問11 ご近所づきあいの中で手助けできること	12
問12 気になるご家庭の有無	13
問13 気になるご家庭の世帯状況	13
(3) 地域活動等への参加について	
問14 過去5年間に地域活動等への参加の有無	14
問15 参加した活動内容	15
問16 参加してよかったこと	15
問17 参加していない理由	16

(4) 地域福祉に対する意識について	
問 18 地域福祉への関心	1 8
問 19 ボランティア活動の必要性	1 9
問 20 民生委員・児童委員の認知度	2 0
問 21 福祉委員の認知度	2 1
問 22 総社市社会福祉協議会の認知度	2 2
問 23 総社市社会福祉協議会事業の認知度	2 3
問 24 地域福祉を推進するうえで必要な取り組み	2 4
(5) 困ったときに相談について	
問 25 不安や悩み事があるときの相談先	2 5
問 26 知っている福祉に関する相談機関	2 6
問 27 相談しやすい相談機関の体制	2 7
(6) 災害時の対応について	
問 28 災害時に不安に思っていること	2 8
問 29 災害時に頼りにしたいと思う人や地域の機関・団体	2 8
(7) 福祉に関する情報の入手について	
問 30 福祉に関する制度やサービスの情報の入手先	2 9
(8) 新型コロナウイルス感染症について	
問 31 コロナ禍において改めて大切だと思ったもの	3 0
(9) 自由意見	
問 32 地域福祉活動や総社市社会福祉協議会への意見や要望	3 1

3. 調査結果のまとめ

(1) 地域の助け合いの必要性について	3 3
(2) 地域でのアンテナについて	3 3
(3) 行政との協働について	3 3
(4) 地域活動等への参加促進	3 4
(5) 社会的孤立の解消	3 4

4. 資料編

・アンケート調査票	3 5
-----------	-----

1. 調査概要

(1) 調査目的

「総社市地域福祉活動計画」の策定にあたり、地域住民を対象として、地域福祉に関する意識及び実態、地域福祉活動への参加状況などを把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施する。

(2) 調査対象者

- ・総社市民
- ・総社市に在勤、在学の方

(3) 調査対象者の類型及び抽出方法

類 型	抽出方法
福祉活動者	・総社市地域福祉活動計画策定委員会委員の所属団体（15団体） ・本会が事務局を担う団体（5団体）
学 生	・岡山県立大学の大学生
一 般	・本会が主催する講座・研修会・行事等の参加者 ・アンケート箱
インターネット	・本会ホームページ ・本会 SNS（Facebook、Twitter） ・社協だより

(4) 実施方法

質 問 紙：福祉活動者、学生、一般
インターネット調査：インターネット

(5) 調査期間

令和4年8月8日（月）～令和4年11月30日（木）

(6) 回収結果

類 型	配布数	有効回収数	有効回収率
福祉活動者	2,218票	1,331票	60.0%
学 生	200票	147票	73.5%
一 般	- 票	211票	- %
インターネット	- 票	31票	- %
合 計	2,418票	福祉活動者+学生 1,478票 総 計 1,720票	61.1%

※一般及びインターネットの類型は、有効回収数のみ記入しています。

(7) 調査データについて

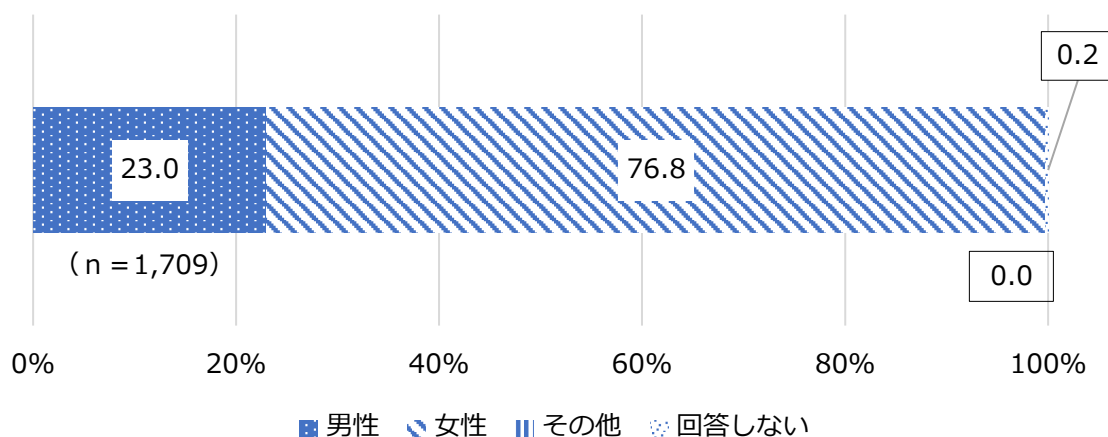
- ・グラフの「n」は設問に対する有効回答者数です。
- ・グラフの数値 (%) はすべて小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、単数回答を求めた設問、複数回答を求めた設問ともに、比率の合計が100.0%にならない場合があります。

2. 調査結果

(1) あなたご自身のことについて

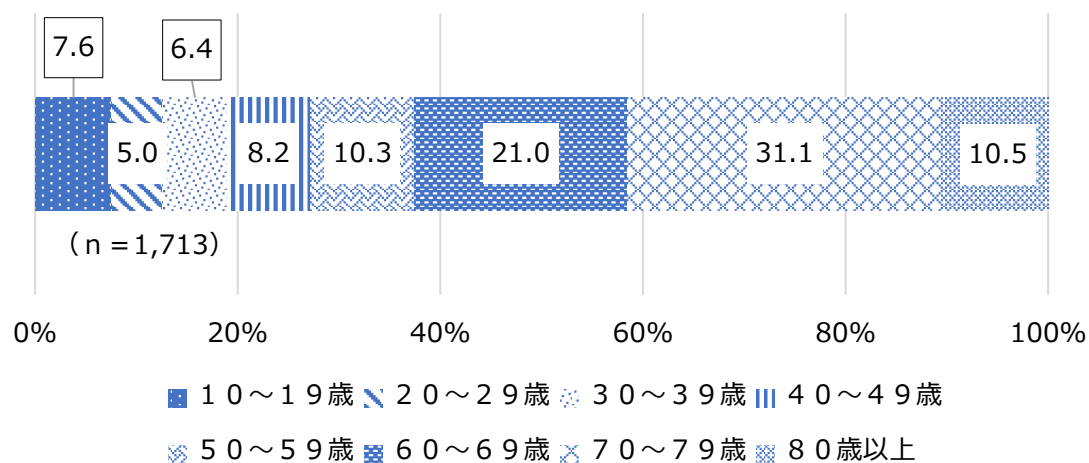
問1 あなたの性別を教えてください。(1つだけに○)

回答者の性別は、「男性」が23.0%、「女性」が76.8%で「女性」が「男性」を53.8ポイント上回っています。



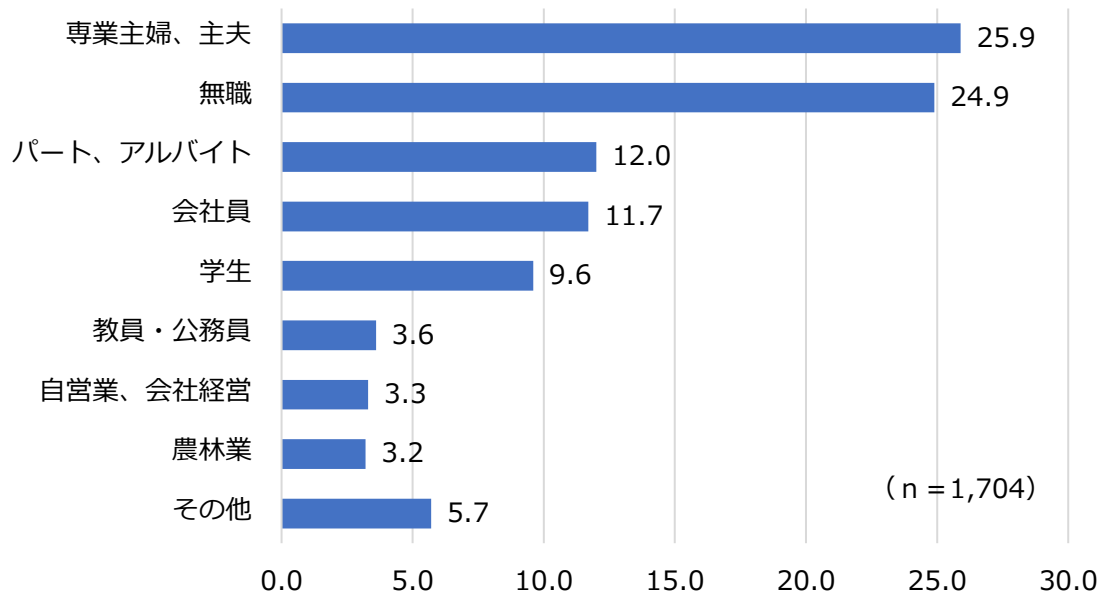
問2 あなたの年齢を教えてください。(1つだけに○)

回答者の年齢は、回答割合が高い順に、「70～79歳」が31.1%、「60～69歳」が21.0%、「80歳以上」が10.5%、「50～59歳」が10.3%、「40～49歳」が8.2%と概ね年齢が高いほど回答割合が高くなっています。



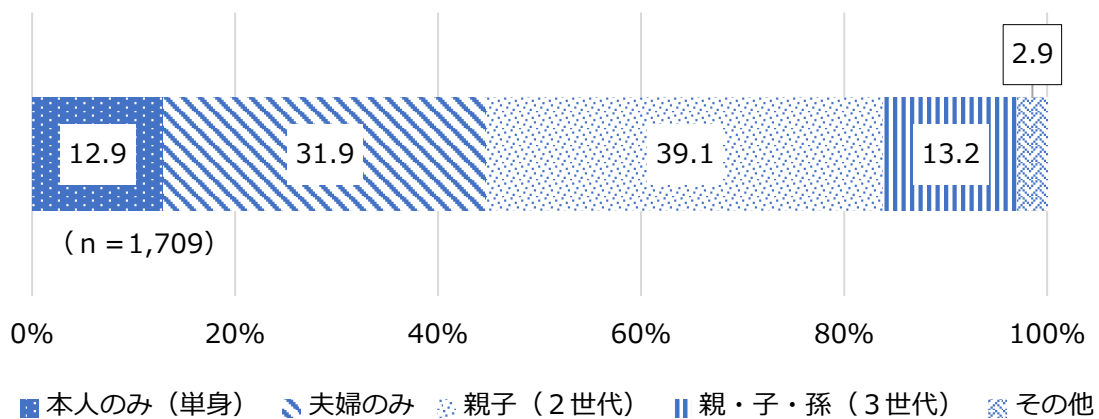
問3 あなたの職業を教えてください。(1つだけに○)

回答者の職業は、「専業主婦、主夫」が25.9%で最も高く、次いで「無職」が24.9%、「パート、アルバイト」が12.0%となっています。



問4 あなたの世帯構成を教えてください。(1つだけに○)

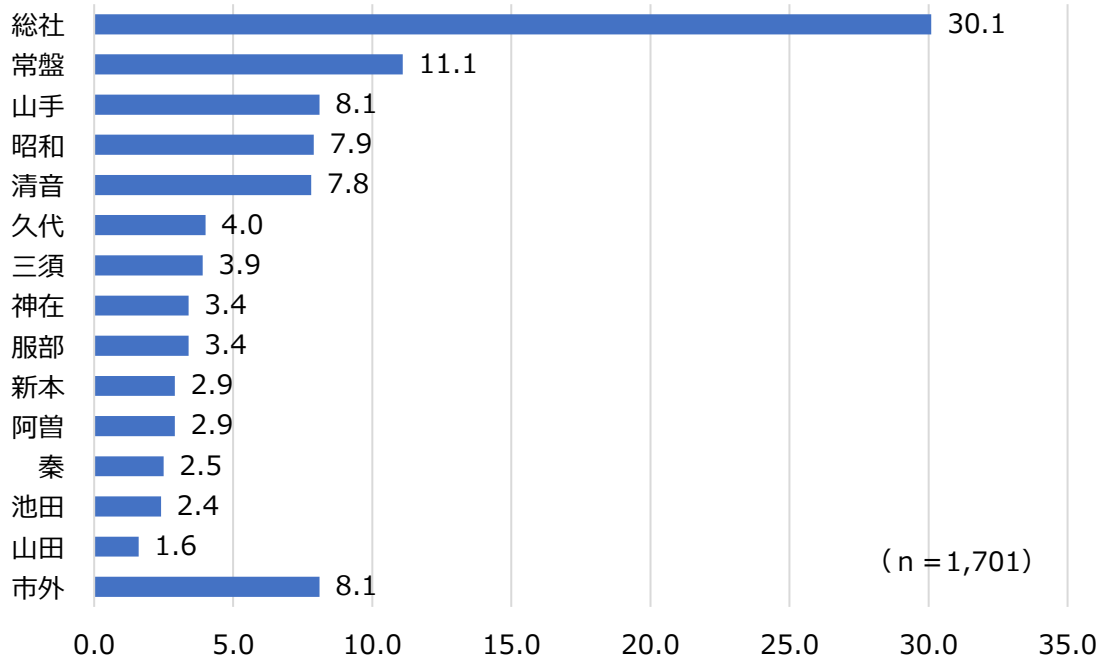
世帯構成は、「親子(2世代)」が39.1%と「夫婦のみ」が31.9%で過半数を超え、次いで、「親・子・孫(3世代)」が13.2%、「本人のみ(単身)」が12.9%となっています。



問5 あなたがお住まいになっている地区を教えてください。

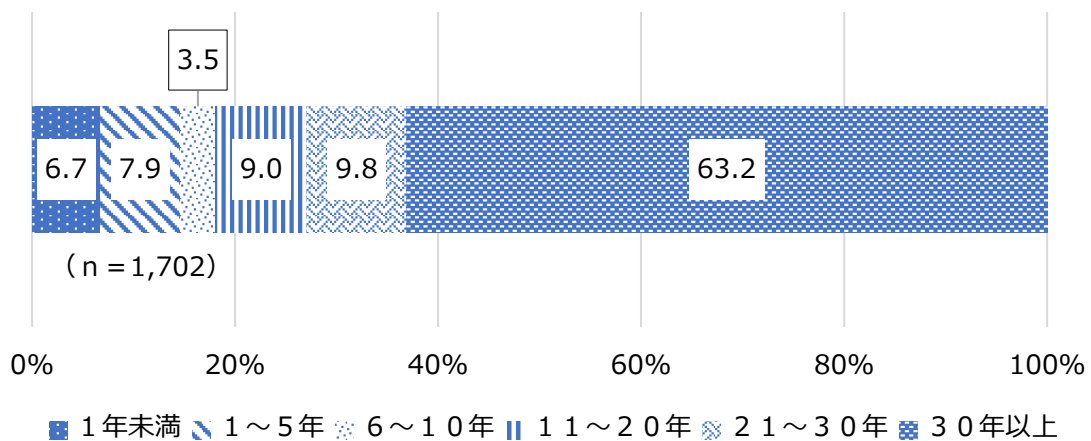
(1つだけに○)

居住地区は、「総社」が30.1%で最も高く、次いで「常盤」が11.1%、「山手」が8.1%となっています。また、「市外」が8.1%を占めています。



問6 あなたは総社市にお住まい（通勤、通学）になられて通算何年になりますか。（1つだけに○）

居住（通勤、通学）年数は、回答割合が高い順に、「30年以上」が63.2%、「21～30年」が9.8%、「11～20年」が9.0%、「1～5年」が7.9%、「1年未満」が6.7%、「6～10年」が3.5%となっています。

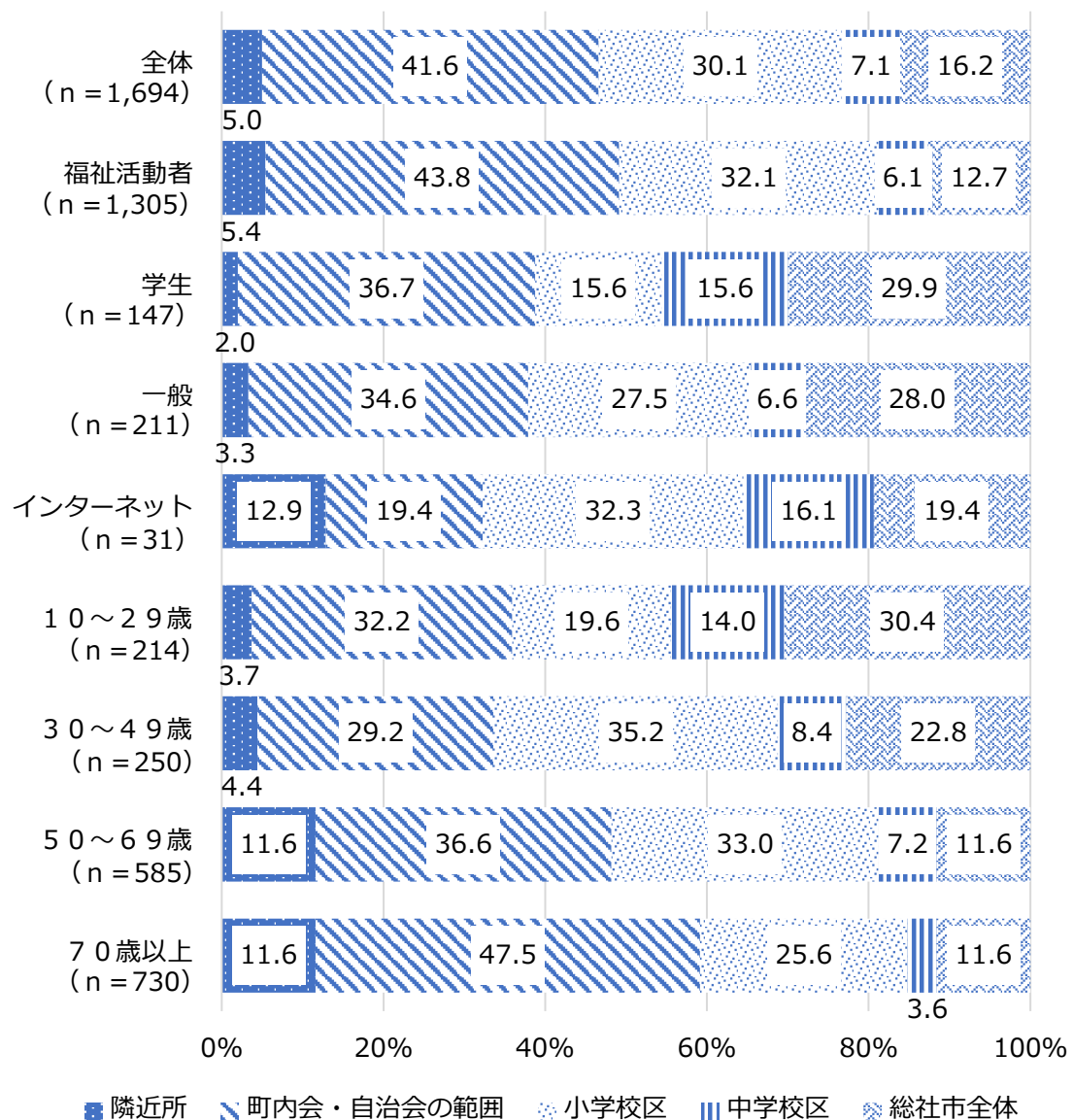


(2) お住いの地域のことについて

問7 あなたが考える「地域」の範囲を教えてください。(1つだけに○)

地域の範囲の認識は、「町内会・自治会の範囲」が41.6%で最も高く、次いで「小学校区」が30.1%、「総社市全体」が16.2%となっています。

回答者の類型は、福祉活動者・学生・一般は「町内会・自治会の範囲」、インターネットは「小学校区」が最も高くなっています。また、回答者の年齢は、概ね年齢が高いほど「町内会・自治会の範囲」の回答割合が高くなっています。

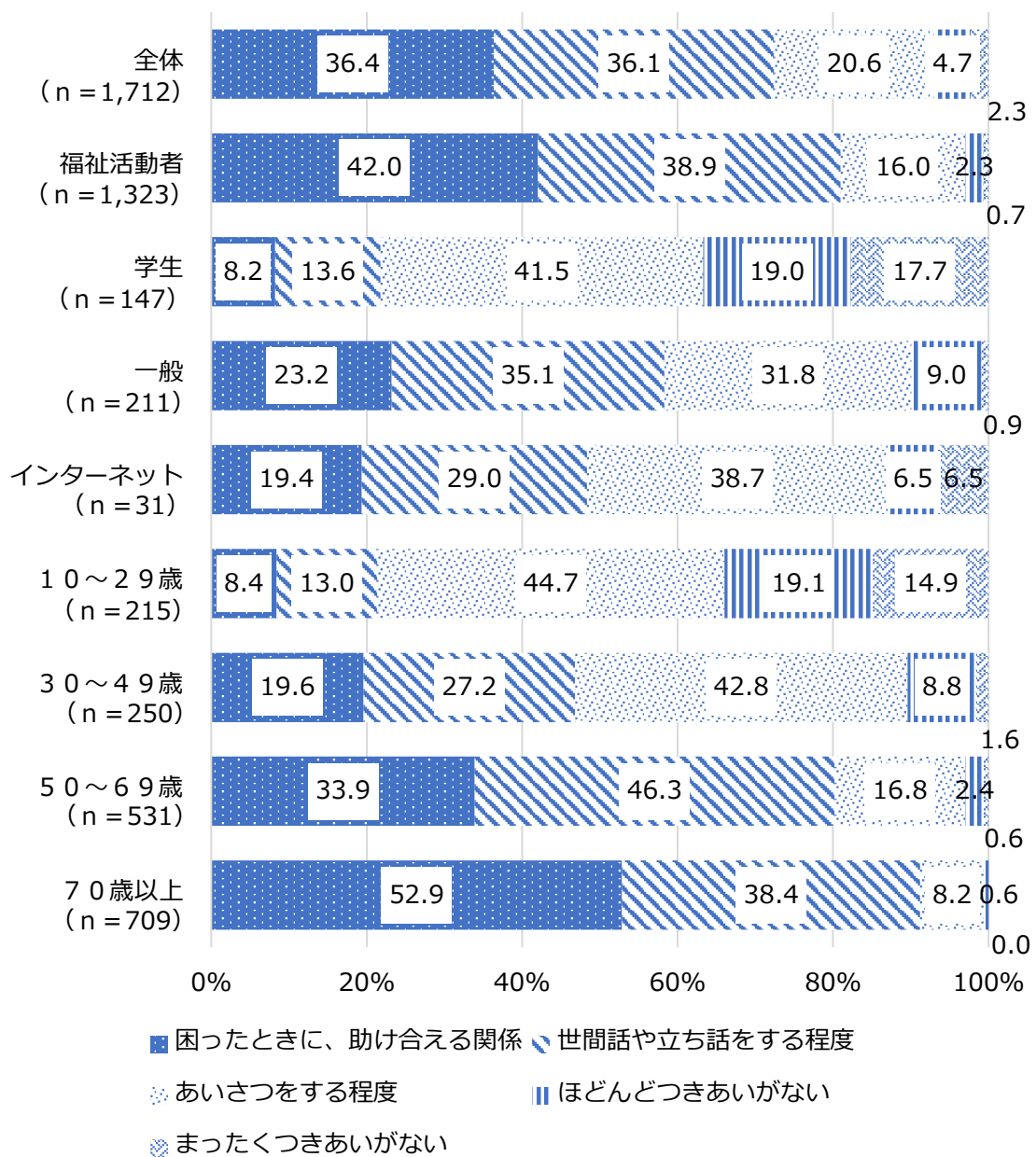


問8 あなたとご近所の方との関係は次のどれに近いですか。

(1つだけに○)

ご近所の方との関係は、「困ったときに、助け合える関係」が36.4%、「世間話や立ち話をする程度」が36.1%とほぼ同数となっており、次いで「あいさつをする程度」が20.6%となっています。

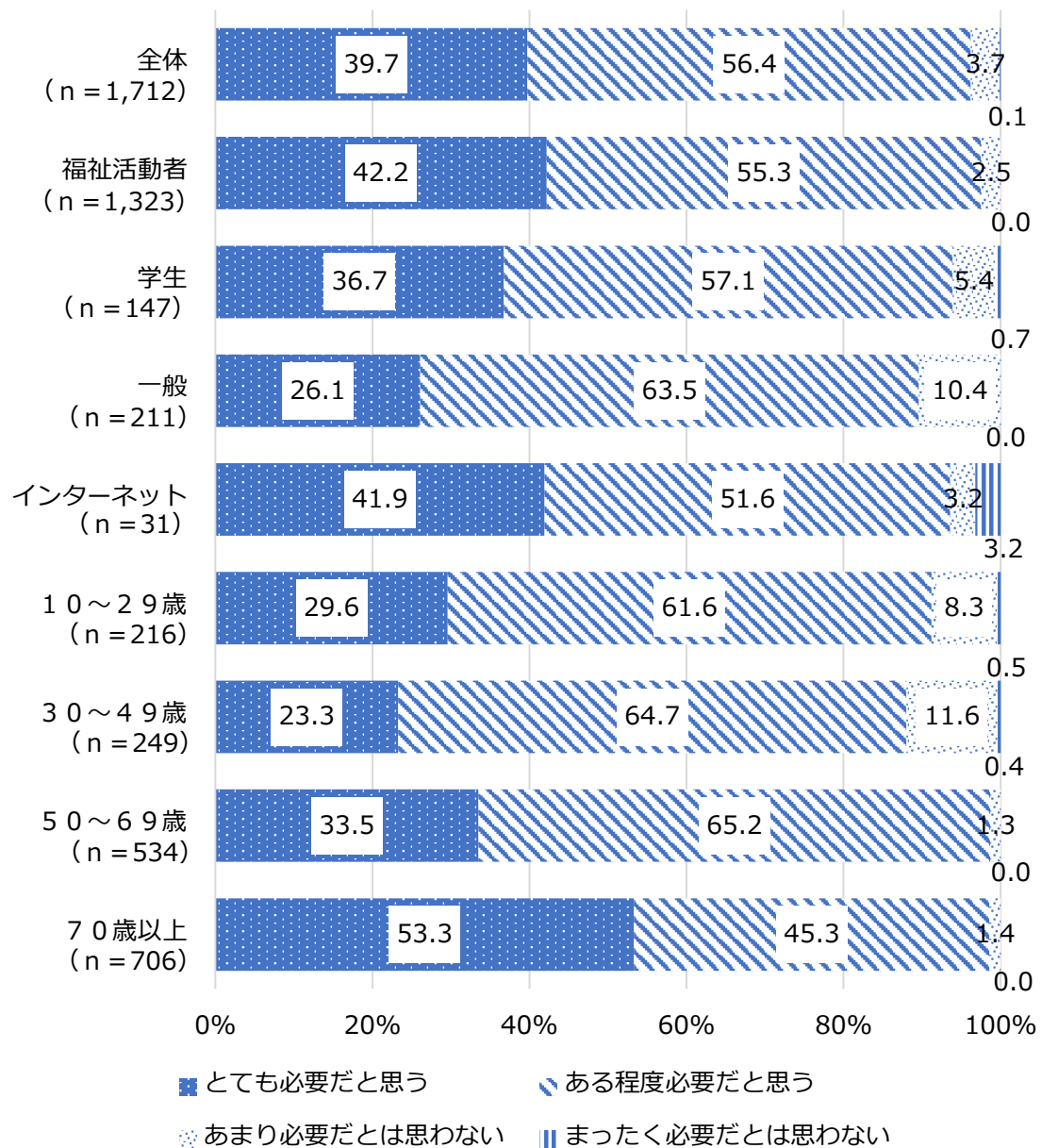
回答者の類型は、福祉活動者は「困ったときに、助け合える関係」、学生・インターネットは「あいさつをする程度」、一般は「世間話や立ち話をする程度」が最も高くなっています。また、回答者の年齢は、年齢が高いほど「困ったときに、助け合える関係」の回答割合が高くなっています。



問9 あなたは、今後、住民同士の支えあいや助けあいが必要だと思いますか。(1つだけに○)

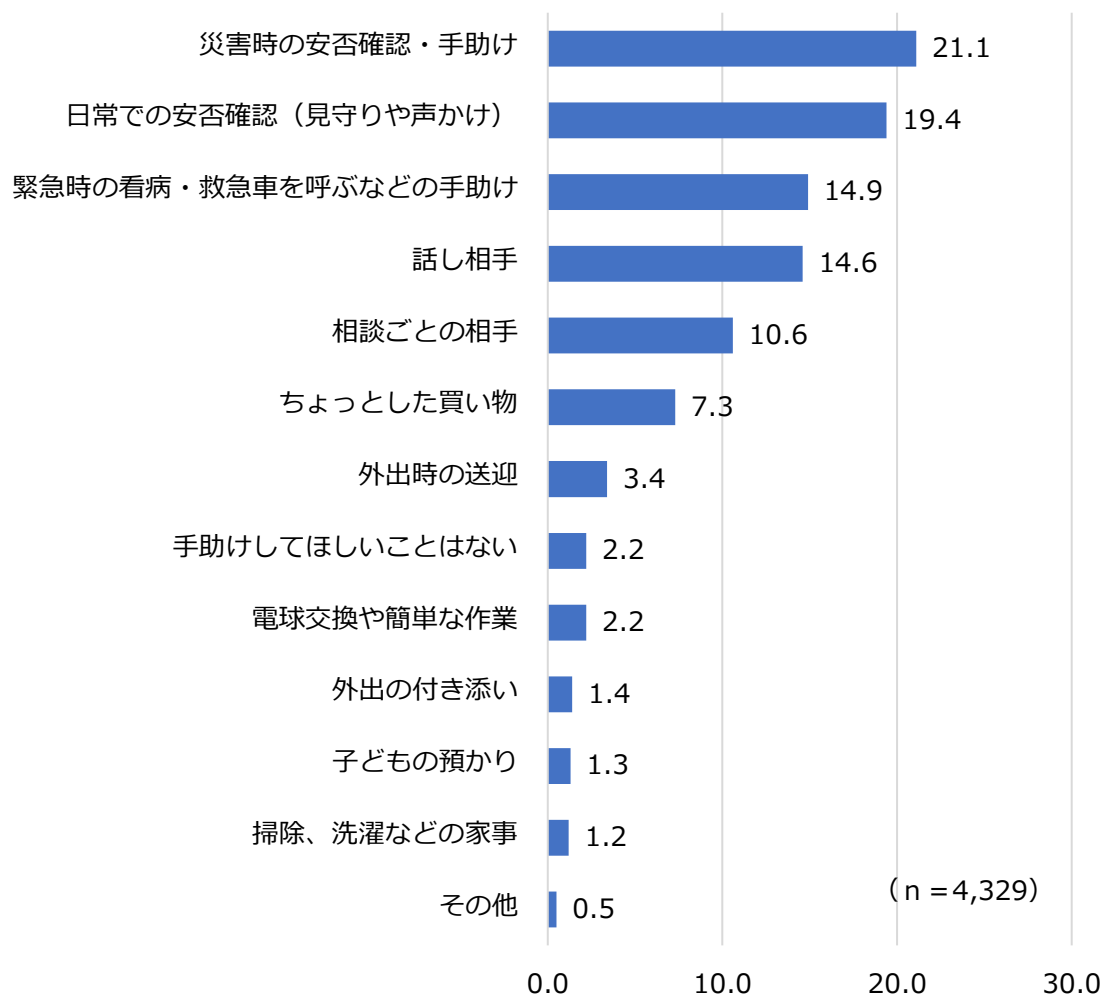
住民同士の支えあいや助け合いの必要性は、「ある程度必要だと思う」が56.4%と「とても必要だと思う」が39.7%で、合計すると96.1%が必要だと思うと回答しています。

回答者の類型は、いずれの類型も「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」の合計の回答割合が85.0%を超えています。また、回答者の年齢は、概ね年齢が高いほど「とても必要だと思う」の回答割合が高くなっています。



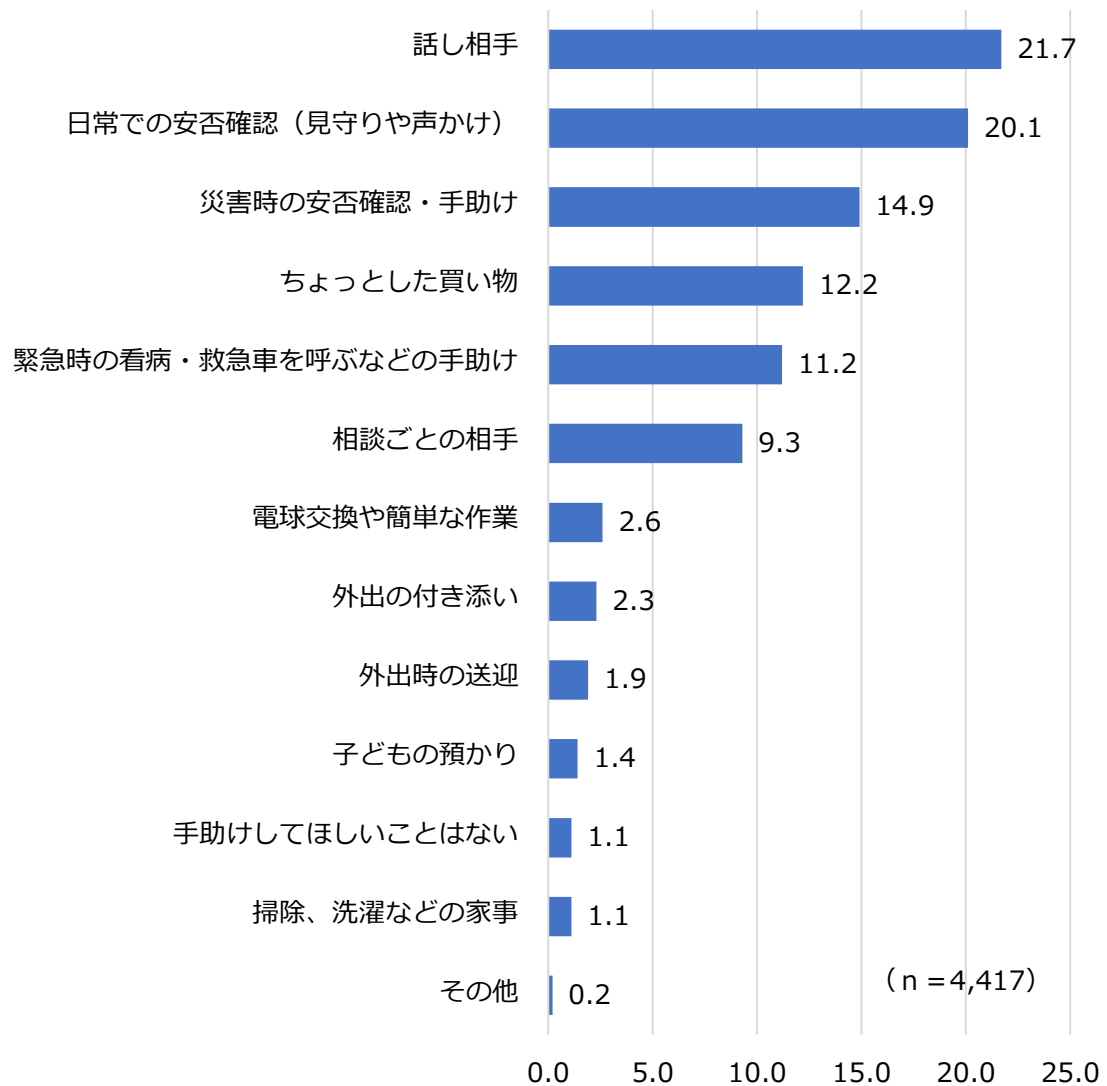
問10 今後、病気や加齢などで日常生活が不自由になったとき、また、子育てや介護をする必要ができたとき、ご近所づきあいの中で、手助けしてほしいと思うことはありますか。(あてはまるもの3つに○)

ご近所づきあいの中で手助けしてほしいことは、回答割合が高い順に、「災害時の安否確認・手助け」が21.1%、「日常での安否確認（見守りや声かけ）」が19.4%、「緊急時の看病・救急車を呼ぶなどの手助け」が14.9%、「話し相手」が14.6%、「相談ごとの相手」が10.6%となっています。



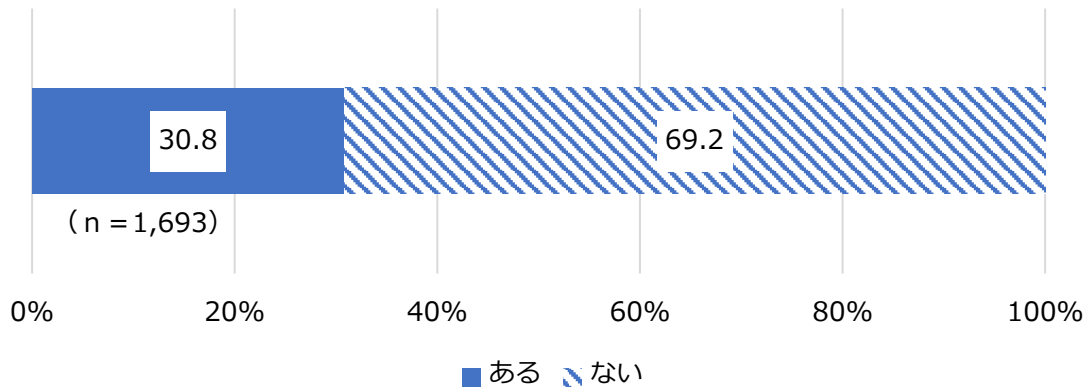
問11 今後、ご近所づきあいの中で、あなたが手助けできると思うことはありますか。(あてはまるもの3つに○) n = 4,329

ご近所づきあいの中で手助けできることは、回答割合が高い順に、「話し相手」が21.7%、「日常での安否確認（見守りや声かけ）」が20.1%、「災害時の安否確認・声かけ」が14.9%、「ちょっとした買い物」が12.2%、「緊急時の看病・救急車を呼ぶなどの手助け」が11.2%となっています。



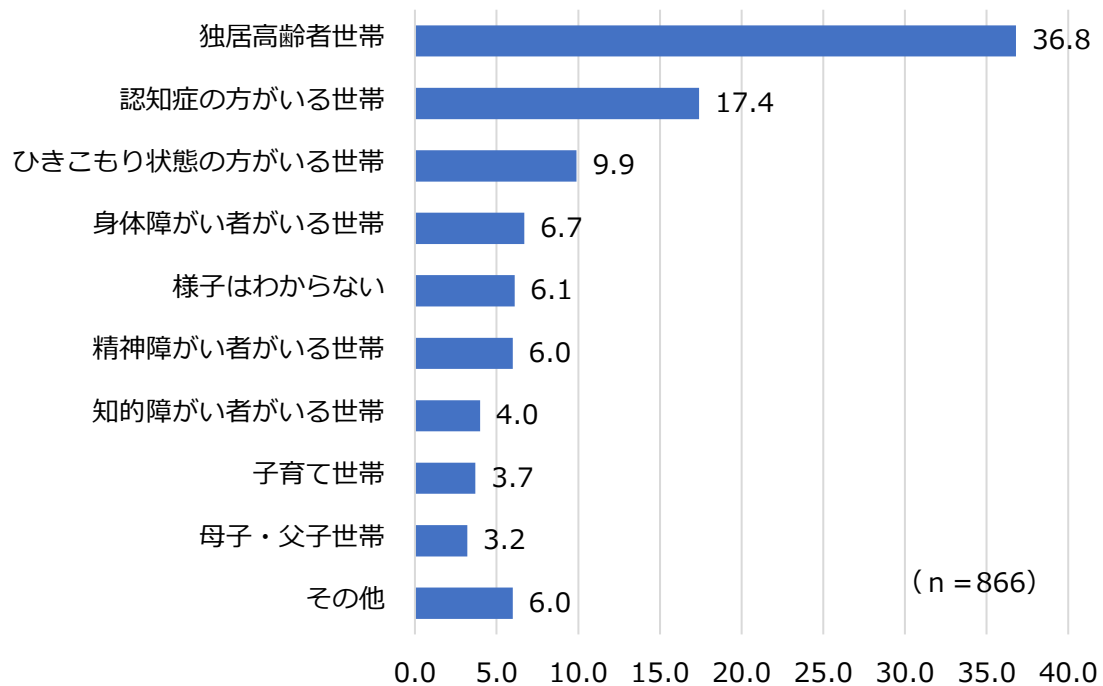
問12 ご近所で、気になっているご家庭はありますか。(どちらかに○)

気になるご家庭の有無は、「ある」が30.8%、「ない」が69.2%となっています。



問13 問12で「1. ある」と答えた方におうかがいします。そのご家庭は、どのような世帯であると感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

気になるご家庭の世帯状況は、「独居高齢者世帯」が36.8%で最も高く、次いで「認知症の方がいる世帯」が17.4%、「ひきこもり状態の方がいる世帯」が9.9%となっています。

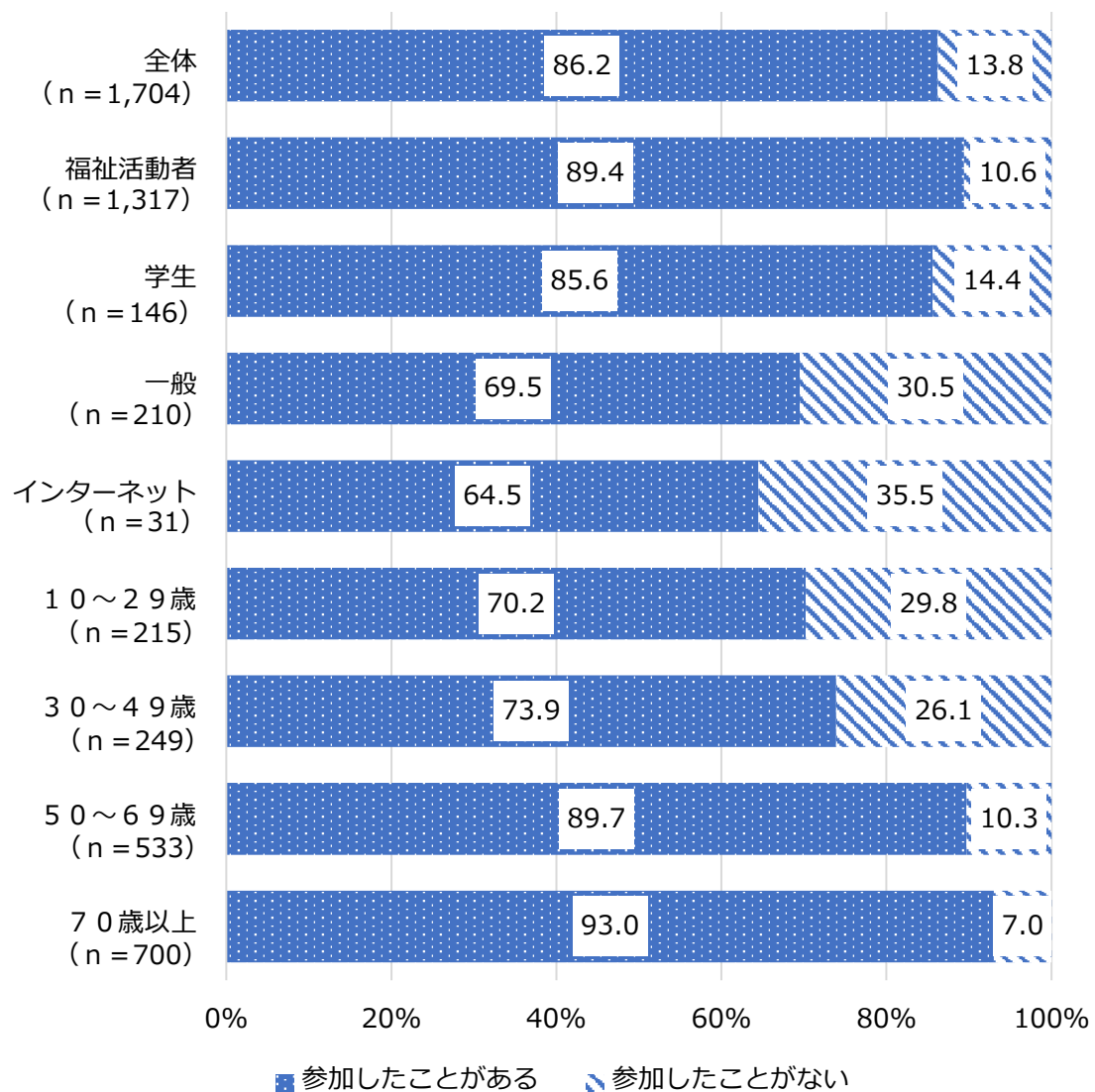


(3) 地域活動等への参加について

問14 あなたは、過去5年間に地域活動等へ参加したことがありますか。
(どちらかに○)

過去5年間に地域活動等への参加の有無は、「参加したことがある」が86.2%、「参加したことがない」が13.8%となっています。

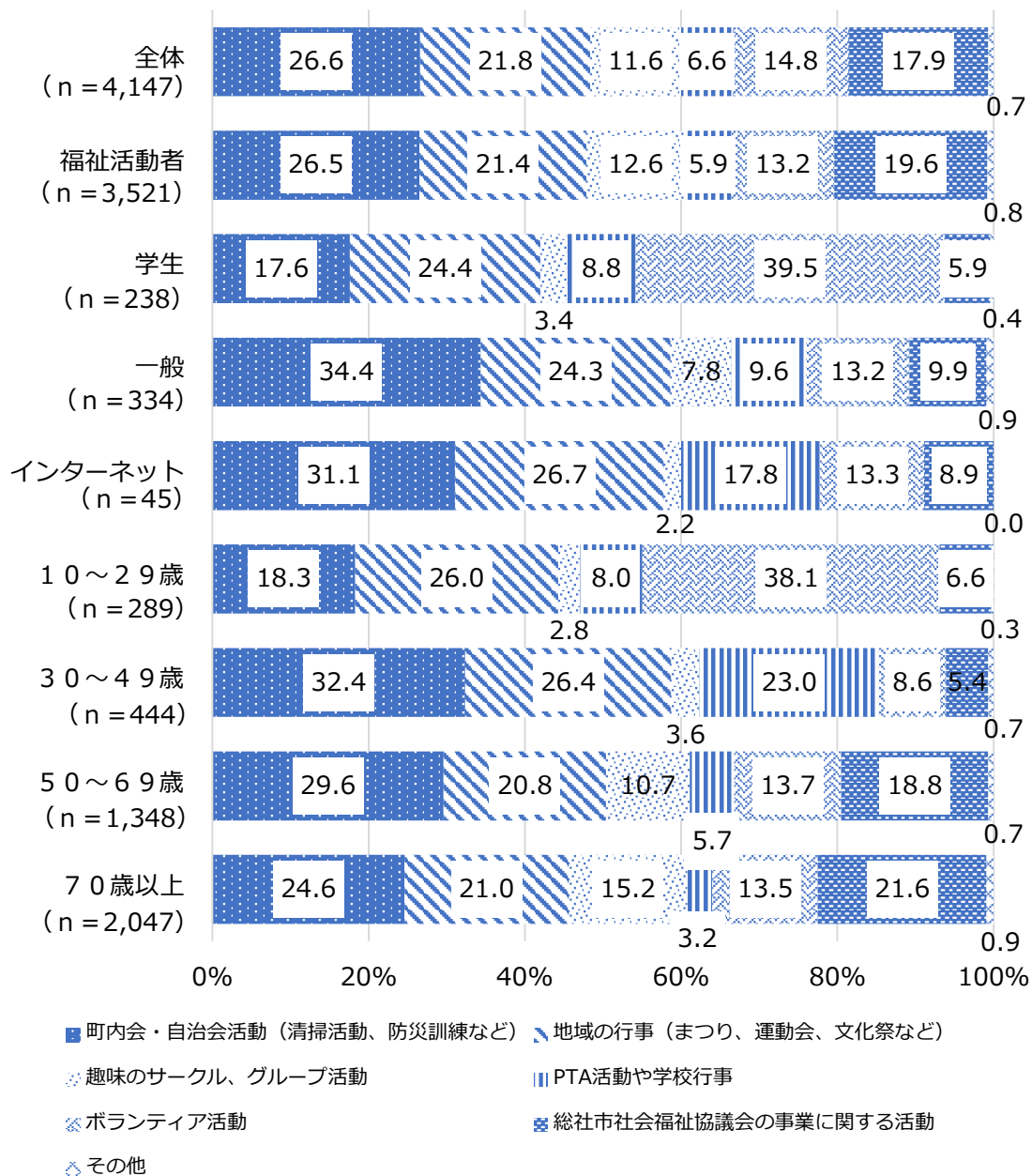
回答者の類型は、いずれの類型も「参加したことがある」が60.0%を超えています。一般・インターネットは福祉活動者・学生と比べ「参加したことがない」の回答割合が高くなっています。また、回答者の年齢は、年齢が高いほど「参加したことがある」の回答割合が高くなっています。



問15 問14で「1. 参加したことがある」と答えた方におうかがいします。
それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

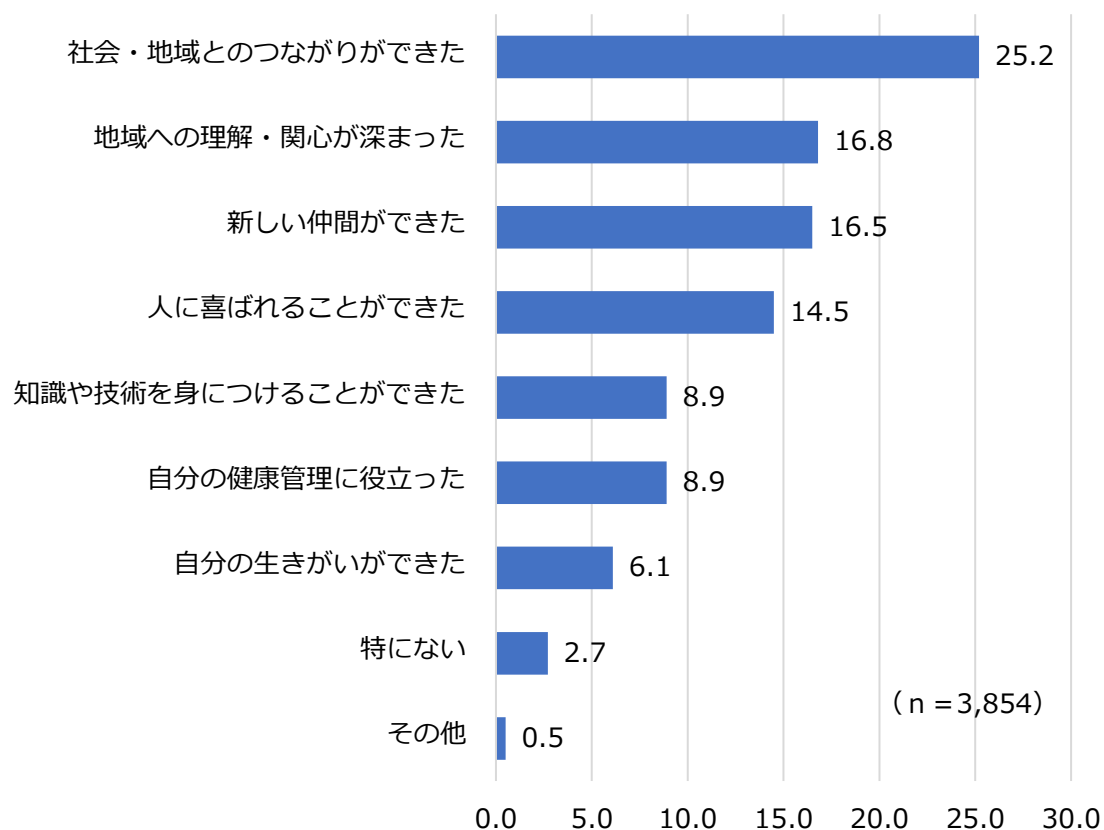
参加した活動内容は、回答割合が高い順に、「町内会・自治会活動」が26.5%、「地域の行事」が21.8%、「総社市社会福祉協議会の事業に関する活動」が18.0%、「ボランティア活動」が14.8%となっています。

回答者の類型は、福祉活動者・一般・インターネットは「町内会・自治会活動」、学生は「ボランティア活動」が最も高くなっています。また、回答者の年齢は、10～29歳は「ボランティア活動」、30～49歳・50～69歳・70歳以上は「町内会・自治会活動」が最も高くなっています。



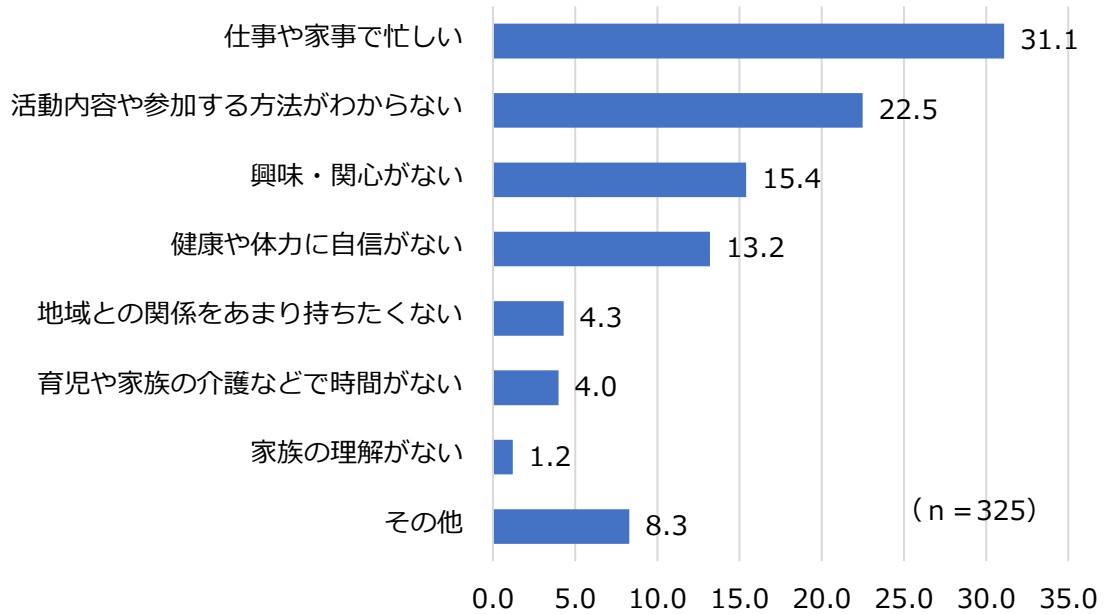
問16 問14で「1. 参加したことがある」と答えた方におうかがいします。参加してよかったことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

参加してよかったことは、「社会・地域とのつながりができた」が25.2%で最も高く、次いで「地域への理解・関心が高まった」が16.8%と「新しい仲間ができた」が16.5%とほぼ同数となっています。



問17 問14で「2. 参加したことがない」と答えた方におうかがいします。
参加されない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

参加していない理由は、「仕事や家事で忙しい」が31.1%で最も高く、次いで「活動内容や参加する方法がわからない」が22.5%、「興味・関心がない」が15.4%、「健康や体力に自信がない」が13.2%となっています。

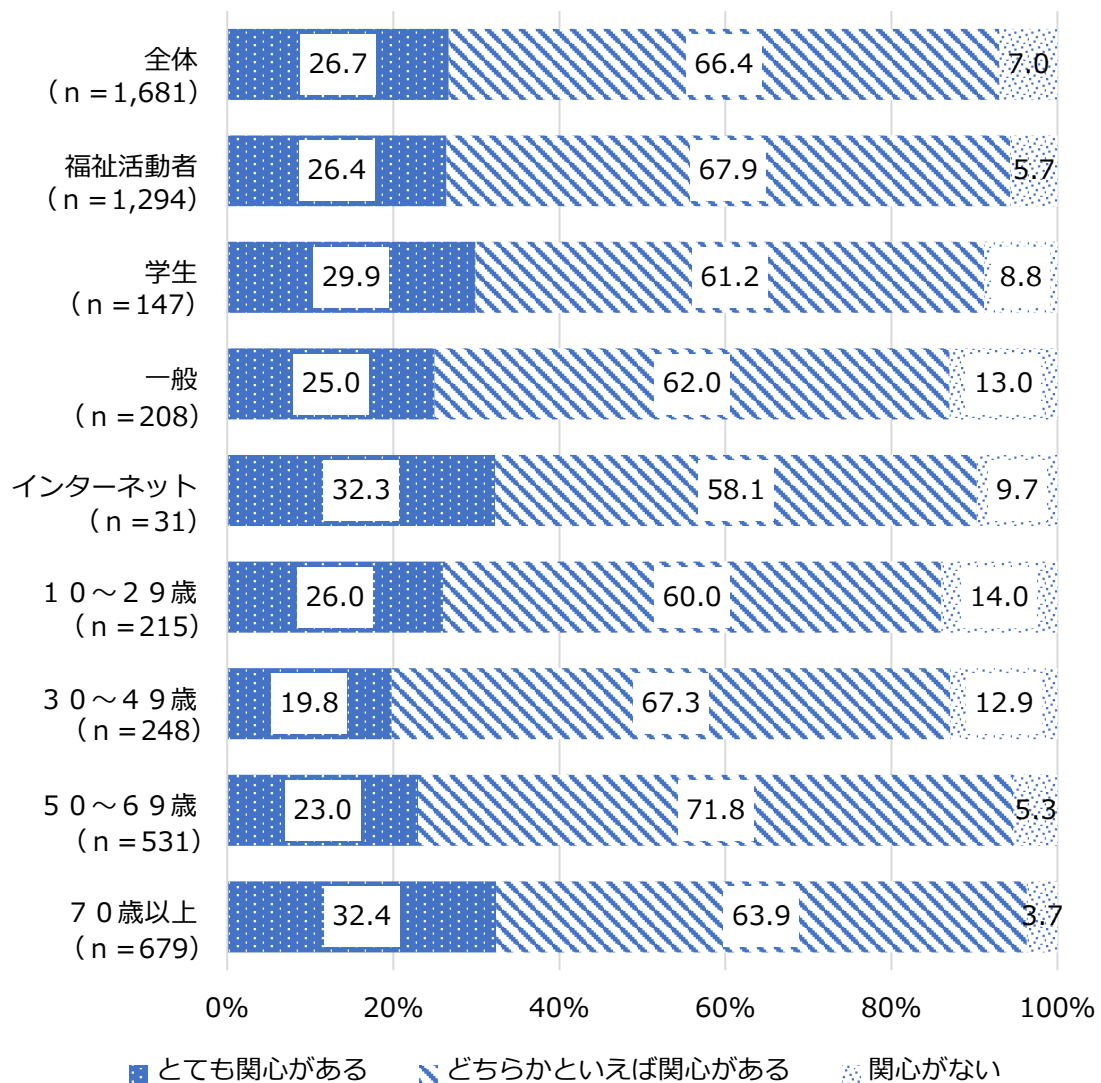


(4) 地域福祉に対する意識について

問18 あなたは地域福祉に関心がありますか。(1つだけに○)

地域福祉への関心は、「どちらかといえば関心がある」が66.4%と「とても関心がある」が26.7%で、合計すると93.1%が関心があると回答しています。

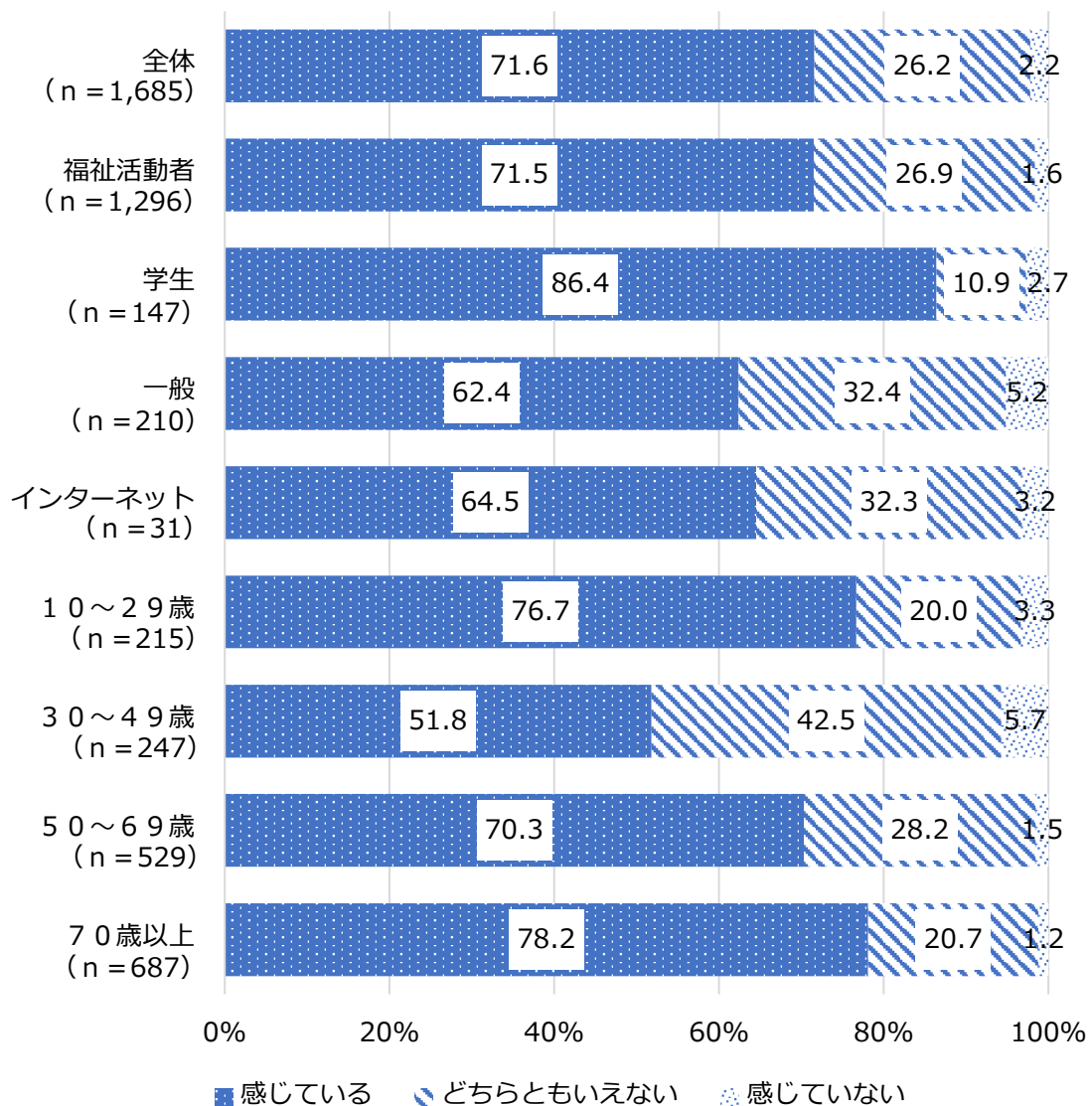
回答者の類型は、いずれの類型も「とても関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計の回答割合が85.0%を超えています。また、回答者の年齢は、年齢が高いほど「とても関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の回答割合が高くなっています。



問19 あなたは地域福祉活動におけるボランティア活動の必要性を感じていますか。(1つだけに○)

ボランティア活動の必要性は、「感じている」が71.6%で過半数を超え、次いで「どちらともいえない」が26.2%、「感じていない」が2.2%となっています。

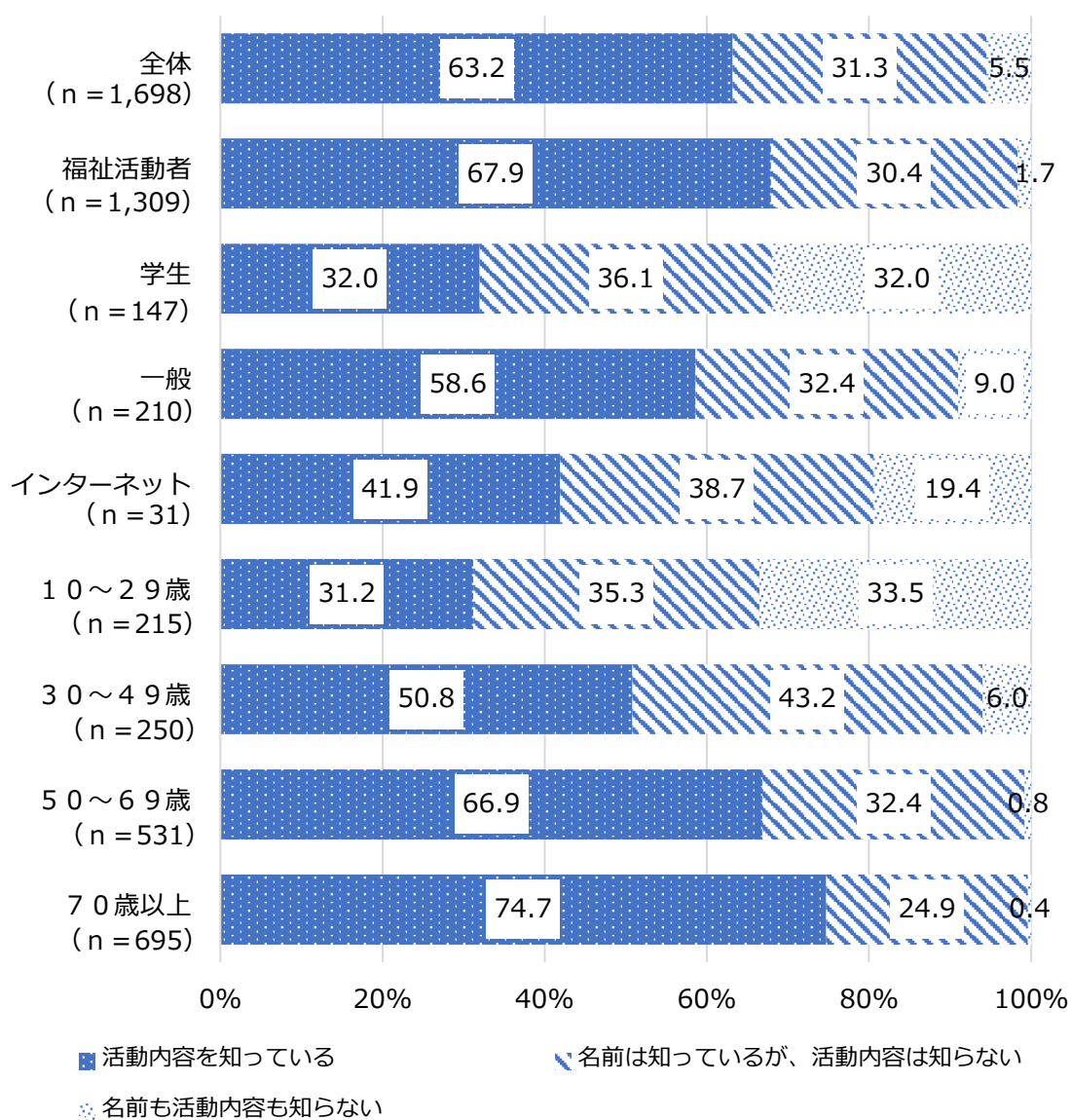
回答者の類型・年齢ともに、いずれの類型も「感じている」が過半数を超えています。特に、類型は学生、年齢は70歳以上の回答で割合が高くなっています。



問20 あなたは民生委員・児童委員をご存じですか。(1つだけに○)

民生委員・児童委員の認知度は、「活動内容を知っている」が63.2%、「名前は知っているが活動内容は知らない」が31.3%で、合計すると94.5%となっています。

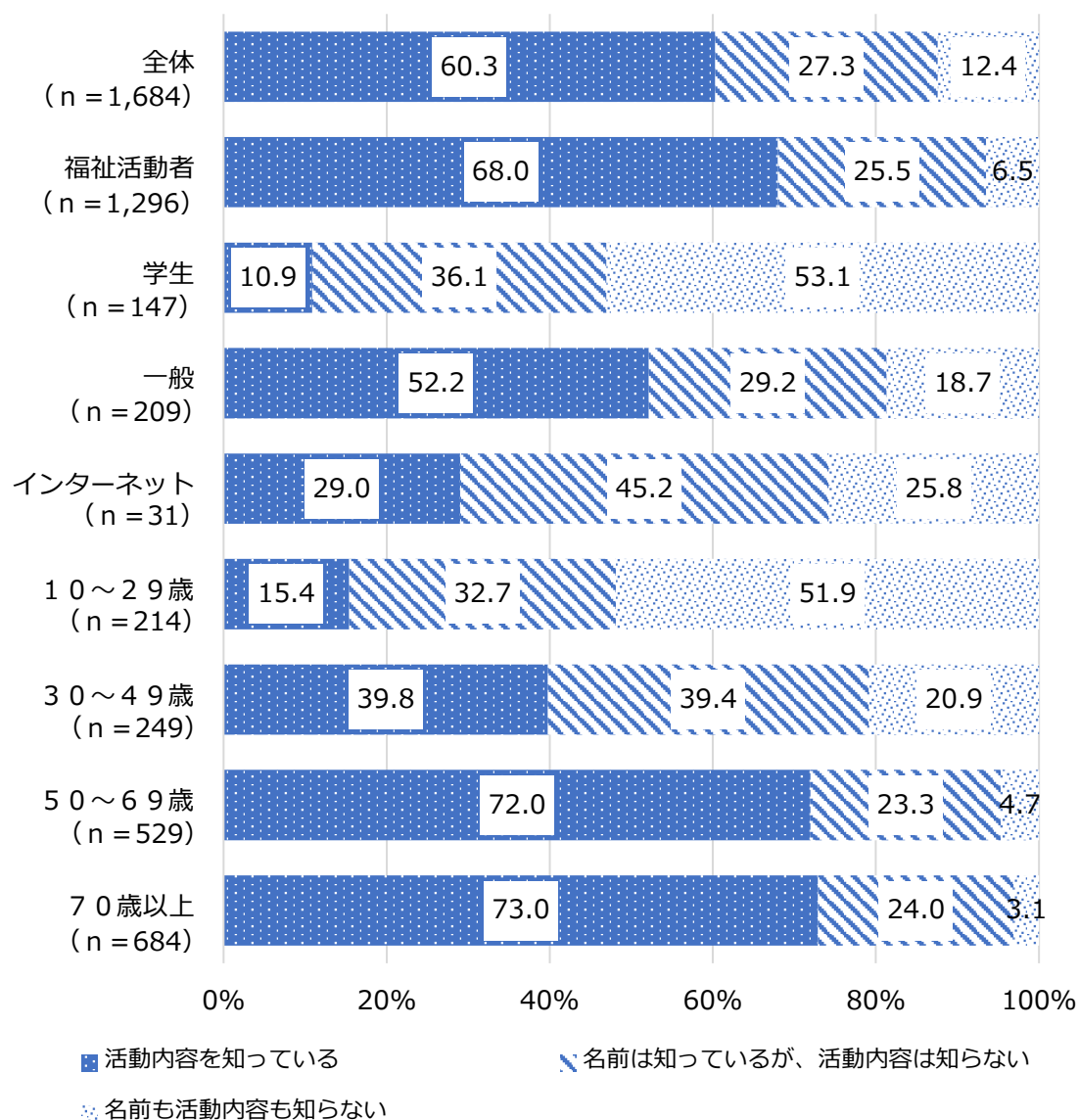
回答者の類型は、福祉活動者・一般・インターネットは「活動内容を知っている」、学生は「名前は知っているが、活動内容は知らない」が最も高くなっています。また、回答者の年齢は、10～29歳は「名前は知っているが、活動内容は知らない」、30～49歳・50～69歳・70歳以上は「活動内容を知っている」が最も高くなっています。



問21 あなたは福祉委員をご存じですか。(1つだけに○)

福祉委員の認知度は、「活動内容を知っている」が60.3%、「名前は知っているが活動内容は知らない」が27.3%で、合計すると87.6%となっています。

回答者の類型は、福祉活動者・一般は「活動内容を知っている」、学生は「名前も活動内容も知らない」、インターネットは「名前は知っているが、活動内容は知らない」が最も高くなっています。また、回答者の年齢は、10～29歳は「名前も活動内容も知らない」、30～49歳・50～69歳・70歳以上は「活動内容を知っている」が最も高くなっています。

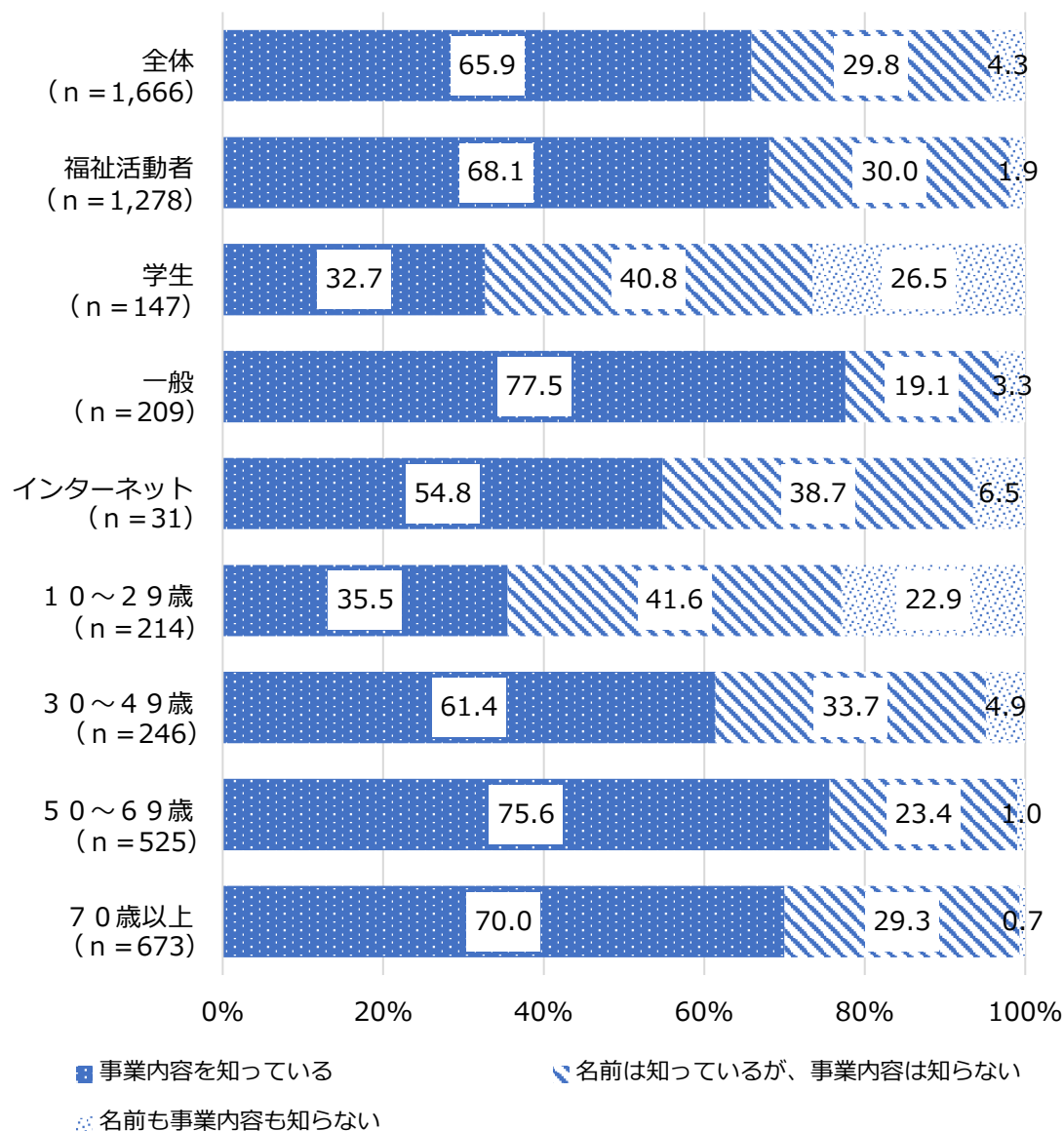


問22 あなたは総社市社会福祉協議会（市社協）をご存じですか。

（1つだけに○）

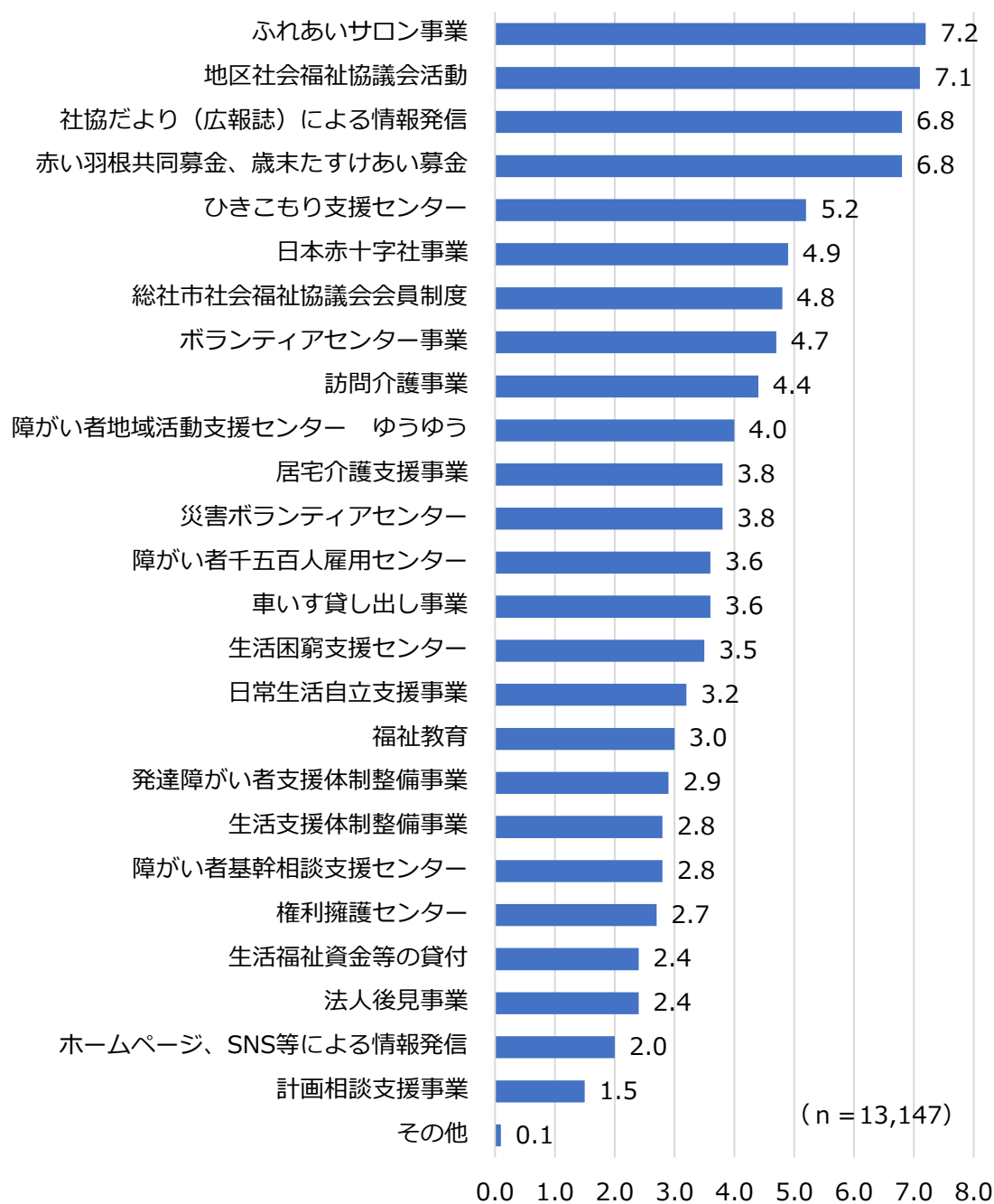
総社市社会福祉協議会の認知度は、「事業内容を知っている」が65.9%、「名前は知っているが事業内容は知らない」が29.8%で、合計すると95.7%となっています。

回答者の類型は、福祉活動者・一般・インターネットは「事業内容を知っている」、学生は「名前は知っているが、事業内容は知らない」が最も高くなっています。また、回答者の年齢は、10～29歳は「名前は知っているが、事業内容は知らない」、30～49歳・50～69歳・70歳以上は「事業内容を知っている」が最も高くなっています。



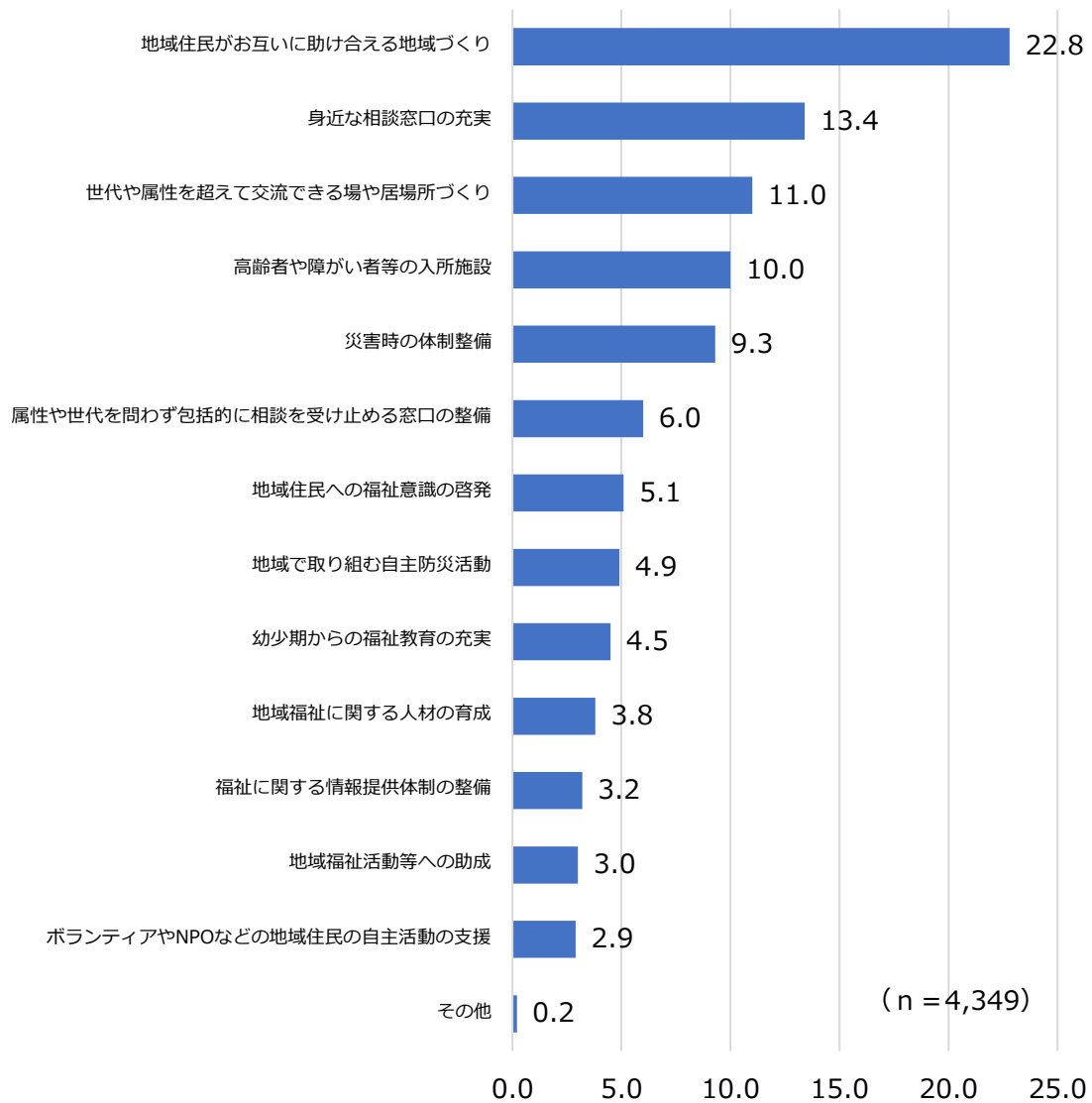
問23 問22で「1. 事業内容を知っている」と答えた方におうかがいします。
 総社市社会福祉協議会の事業で知っているものを教えてください。
 (あてはまるものすべてに○)

総社市社会福祉協議会事業の認知度は、回答割合が高い順に、「ふれあいサロン事業」が7.2%、「地区社会福祉協議会活動」が7.1%、「社協だよりによる情報発信」と「赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金」が6.8%、「ひきこもり支援センター」が5.2%となっています。



問24 今後、地域福祉を推進するうえでどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つに○)

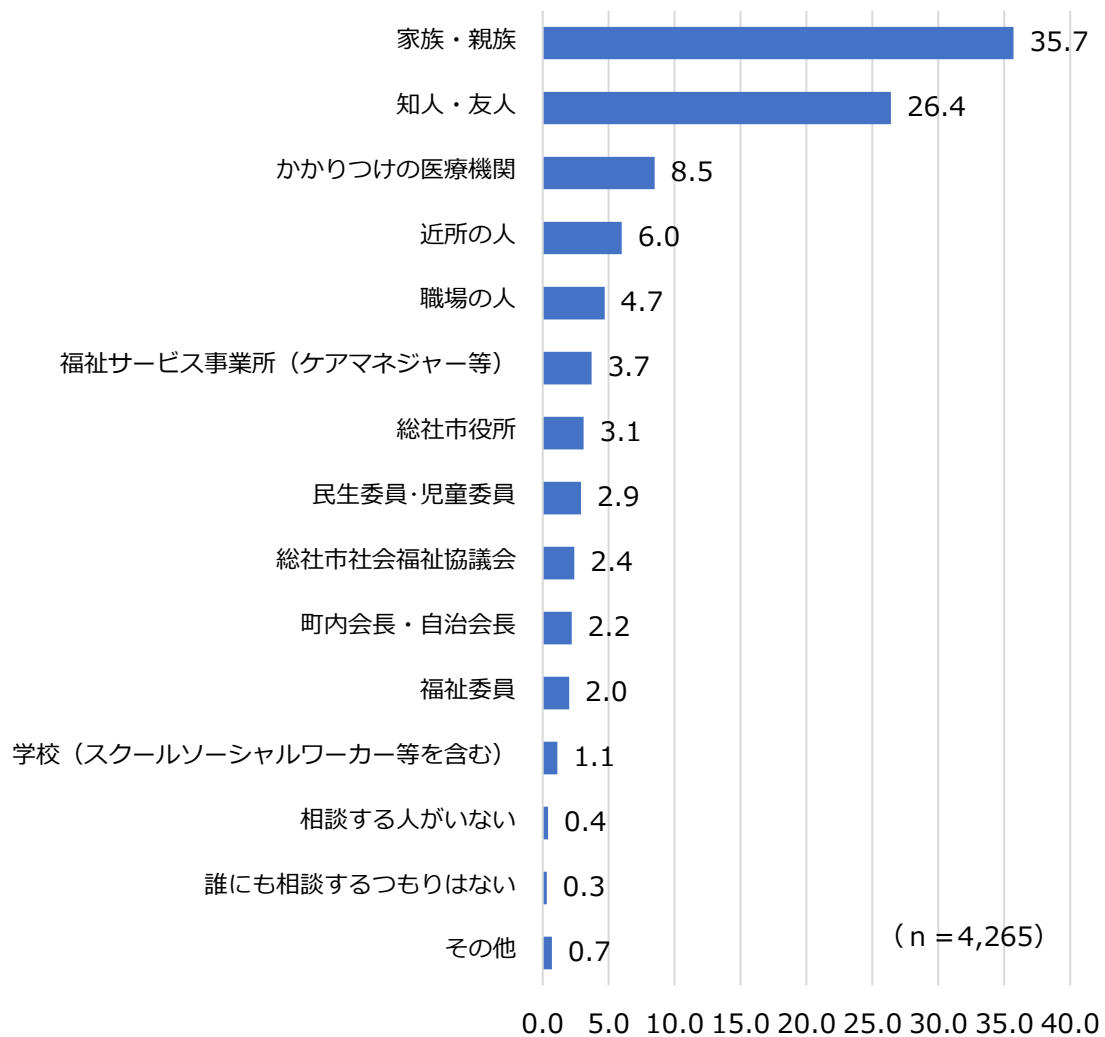
地域福祉を推進するうえで必要な取り組みは、「地域住民がお互いに助け合える地域づくり」が22.8%で最も高く、次いで「身近な相談窓口の充実」が13.4%、「世代や属性を超えて交流できる場や居場所づくり」が11.0%、「高齢者や障がい者等の入所施設」が10.0%となっています。



(5) 困ったときに相談について

問25 あなたは不安や悩みごとがあるとき、誰（どこ）に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

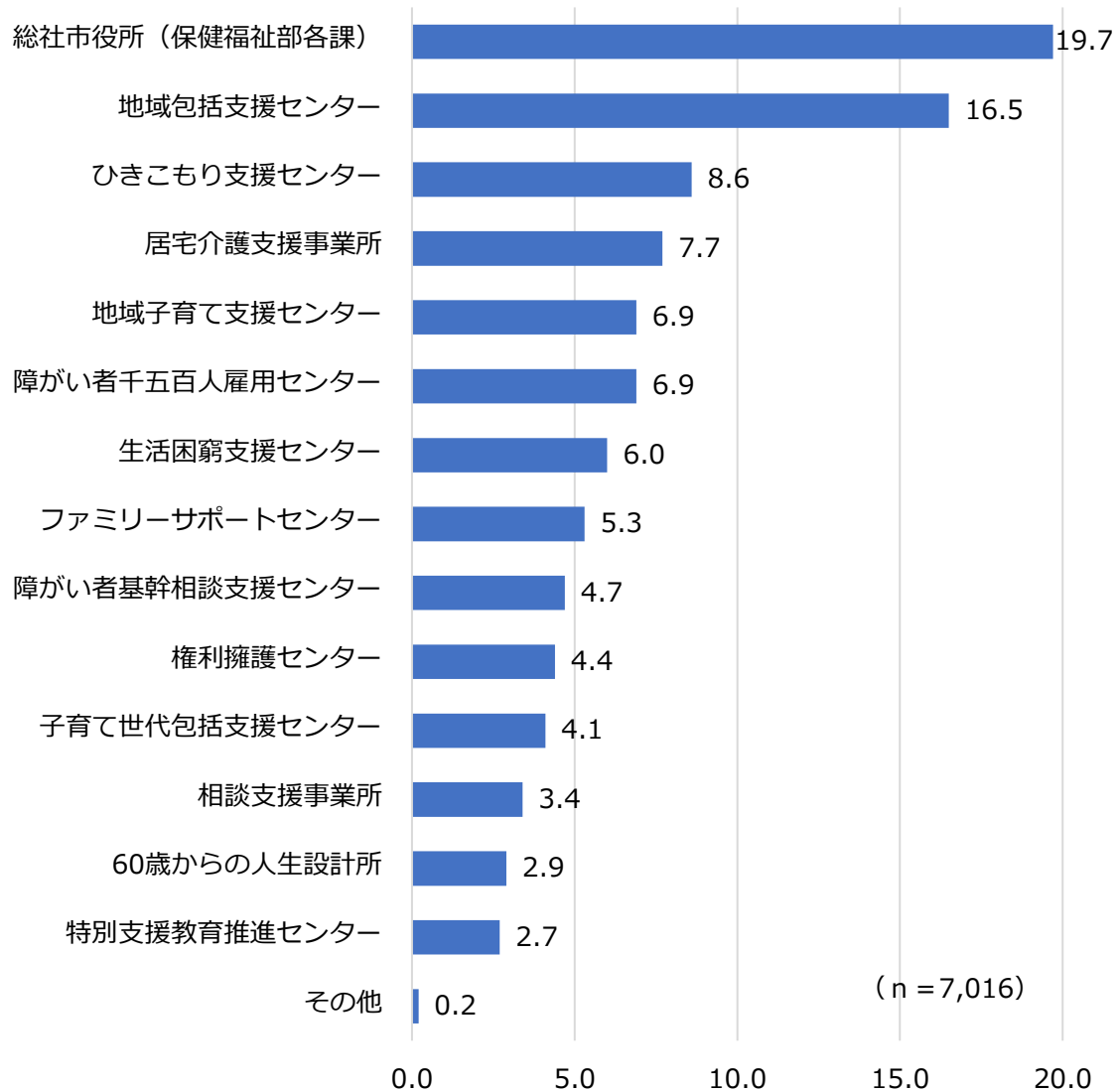
不安や悩みごとがあるときの相談先は、「家族・親族」が35.7%と「友人・知人」が26.4%で過半数を超え、次いで「かかりつけの医療機関」が8.5%、「近所の人」が6.0%となっています。



問26 あなたが知っている福祉に関する相談機関を教えてください。

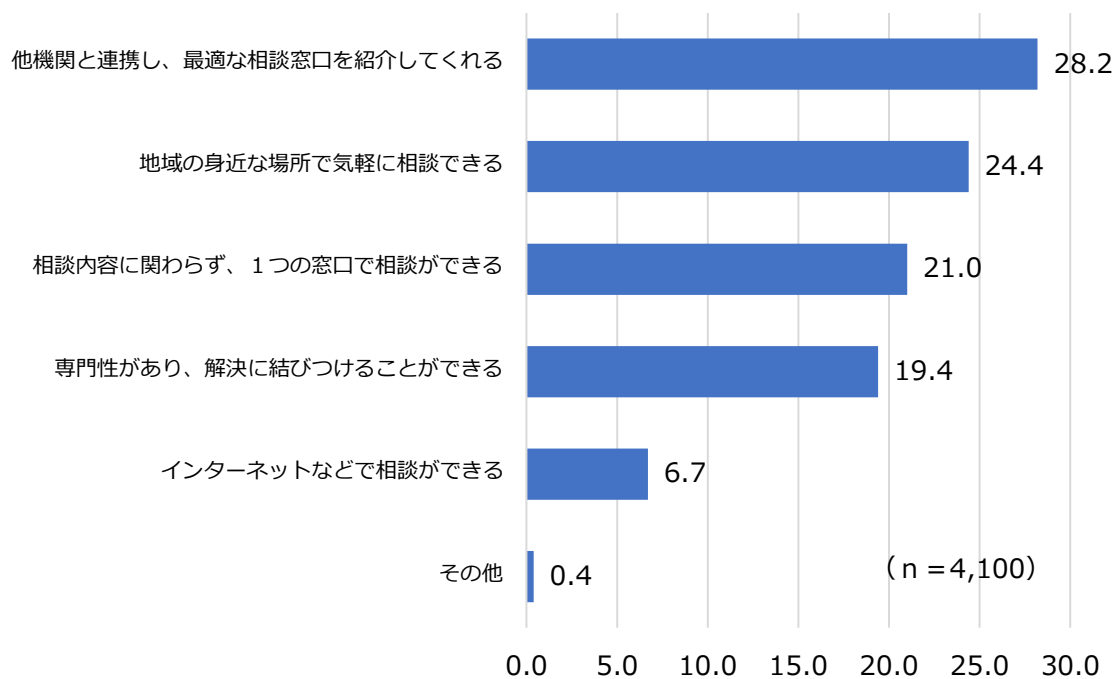
(あてはまるものすべてに○)

知っている福祉に関する相談機関は、回答割合が高い順に、「総社市役所」が19.7%、「地域包括支援センター」が16.5%、「ひきこもり支援センター」が8.6%、「居宅介護支援事業所」が7.7%となっています。



問27 相談機関にどのような体制が整っていれば相談しやすいと思いますか。(あてはまるもの3つに○)

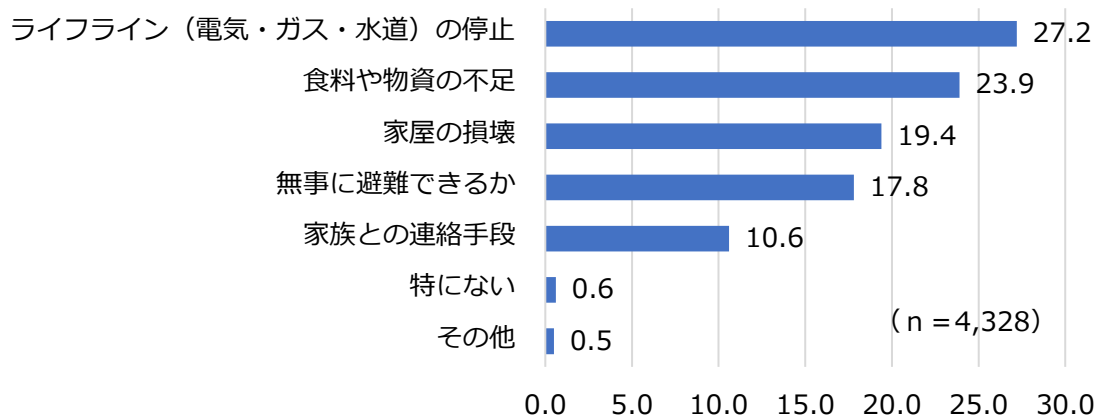
相談しやすい相談機関の体制は、「他機関と連携し、最適な相談窓口を紹介してくれる」が28.2%で最も高く、次いで「地域の身近な場所で気軽に相談できる」が24.4%、「相談内容に関わらず、1つの窓口で相談ができる」が21.0%、「専門性があり、解決に結びつけることができる」が19.4%となっています。



(6) 災害時の対応について

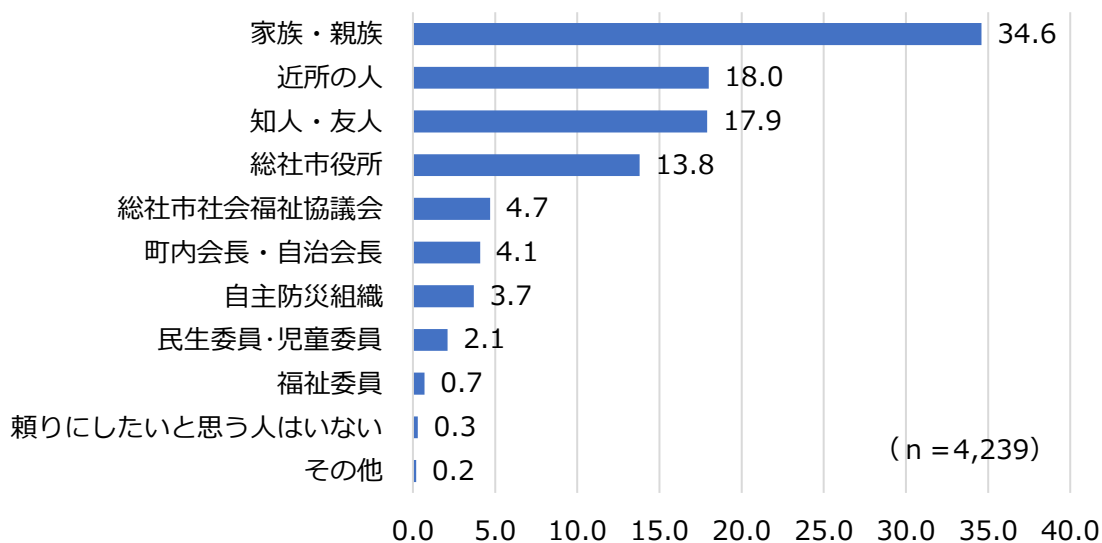
問28 地震や水害などの災害時、不安に思っていることを教えてください。
(あてはまるもの3つまでに○)

災害時に不安に思っていることは、「ライフラインの停止」が27.2%で最も高く、次いで「食料や物資の不足」が23.9%、「家屋の損壊」が19.4%、「無事に避難できるか」が17.8%となっています。



問29 災害時に頼りにしたいと思う人や地域の機関・団体を教えてください。
(あてはまるもの3つまでに○)

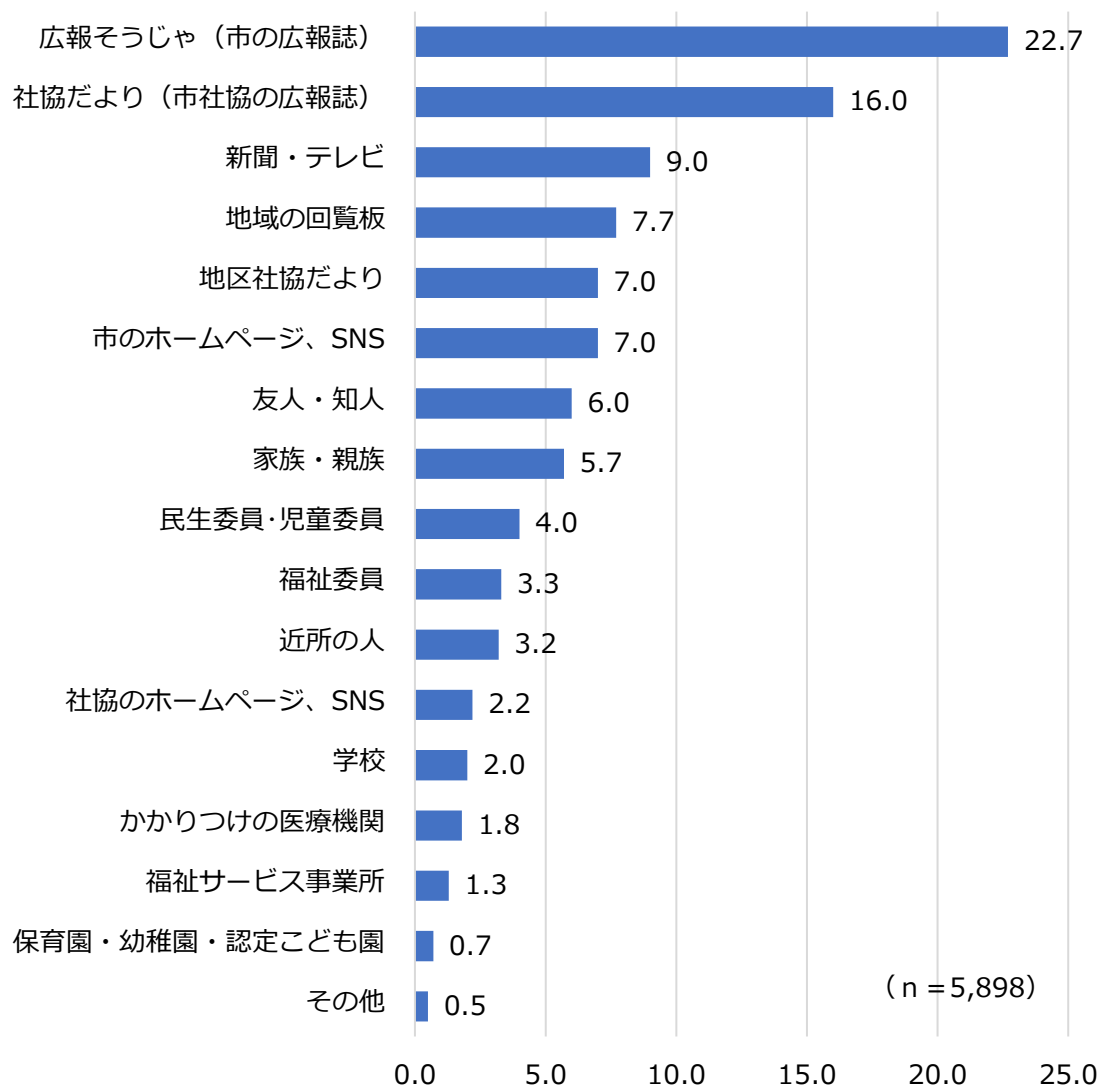
災害時に頼りにしたいと思う人や地域の機関・団体は、「家族・親族」が34.6%で最も高く、次いで「近所の人」が18.0%、「知人・友人」が17.9%、「総社市役所」が13.8%となっています。



(7) 福祉に関する情報の入手について

問30 あなたは福祉に関する制度やサービスの情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

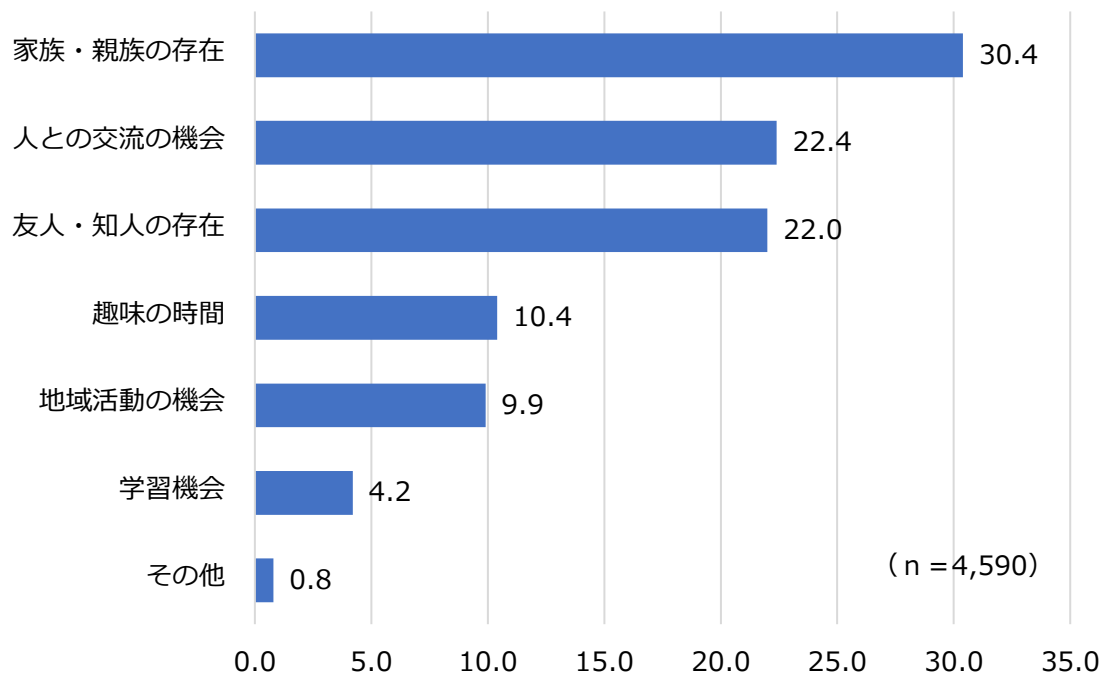
福祉に関する制度やサービスの情報の入手先は、「広報そうじゃ」が22.7%で最も高く、次いで「社協だより」が16.0%、「新聞・テレビ」が9.0%、「地域の回覧板」が7.7%となっています。



(8) 新型コロナウイルス感染症について

問31 コロナ禍において、改めてあなたが大切だと思ったものを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

コロナ禍において、改めて大切だと思ったものは、「家族・親族の存在」が30.4%で最も高く、次いで「人との交流の機会」が22.4%、「友人・知人の存在」が22.0%、「趣味の時間」が10.4%となっています。



(9) 自由意見

問32 地域福祉活動や総社市社会福祉協議会へご意見やご要望があればご記入ください。

本設問について意見を求めたところ、241件の回答が得られました。意見を内容ごとにまとめ、以下に掲載します。

■ 地域福祉活動についての意見

- ・自分も含め近年高齢者家族が増え、近所の人々とのつながりが一層大切になると思っています。
- ・今後は超高齢社会、少子化社会が進む中であって近隣及び小地域でのつながりを強くする政策が必要である。
- ・増々地域福祉活動は必要とされる。“世話役”の後継者が育っていかないということが問題である。
- ・コロナ禍以降、地域活動や地域コミュニケーションが無くなっています。大切な絆が薄れていると感じます。
- ・それぞれの地区でいろんな課題があると思いますが、自分の地区での課題について住民全体が、自主的に積極的に考え参加していけたらと思います。子どもの頃から福祉への感心を育てていけたらと思います。
- ・地域によって活動の差が大きい
- ・多世代が交流できる居場所作りがすすんでいったらいいなと思いました。

■ 総社市社会福祉協議会への意見

- ・いろいろな部門の相談窓口を数多く持っておられ、とても心強い。地域の困りごとがあっても「社協につながれば何とかしてくれる」と頼りに出来る。
- ・地域でのサロン活動の時に社協の方に参加して頂く事があったのですが、色々な情報を教えてもらったので、とても参考になりました。社協の方と接する機会が増えればいいなと思います。
- ・行政からの委託事業よりも社協ならではの地域づくりを期待しています。
- ・私が今度直面するであろう、いろいろな事を考えると地域福祉課、在宅福祉課等の内容を出前講座等で説明いただける機会があればと思います。
- ・社会福祉協議会の活動をもっと広く市民にPRするといいと思います。

■高齢者等の生活課題についての意見

- ・車に乗れなくなった時の交通手段が不安。
- ・色々な集いを行って頂き嬉しく思いますが、それに参加するための足がないので困る人がおられる様に思います。
- ・住んでいる地区は過疎化が進んでおり、交通手段がないと買い物や通院に困る事態になろうかと思うので、将来が心配である。
- ・高齢化社会で一人暮らしの人も増えているので見守り、励ましが必要となってくると思う。

■相談窓口について

- ・相談ごとがたらい回しにならないように相談窓口を整備してほしい。
- ・福祉の充実したまちにするためには相談窓口があるだけではなく、そこに相談してよかったと思える対応をしていることが大切だと思います。相談者に寄り添い、ニーズを引き出し、きちんと最後まで責任をもてる体制づくりが必要だと思います。
- ・相談窓口から各事業に連携を図りスピーディーな対応をして欲しい
- ・このアンケートで、初めて総社市社会福祉協議会のHPを知りました。とても見やすくわかりやすいです。HPなので、高齢者等は見るとかは不明ですが、HP上でなんでも相談窓口みたいなものがあれば（メールで相談）、相談の敷居が低くなるかと思いました。

■その他

- ・総社市は福祉に力を入れている自治体だと認識しています。子育て、介護など独自の取り組みをしてほしい。
- ・地区の福祉委員を経験させて頂いたことで今まで知りえなかった活動内容や地域の方との交流をすることが出来ました。相談することが出来る場や人がいることが本当に必要だなと感じさせられました。
- ・災害の時など一人で暮らしていて心細いことがあるが、近所の方が優しく声かけなどして下さるとうれしい。
- ・アンケート、難しかったです。今はまだ実感はありませんが、普段から気軽にあいさつしたり、話をする近所づきあいが、福祉の第一歩だと思っています。
- ・個人的にはボランティアに興味がありますが、市のHPなどでは情報が少なすぎると感じています。もっとたくさん情報があればいいと思います。

3. 調査結果のまとめ

総社市地域福祉活動計画策定に向け、地域住民を対象としたアンケート調査を実施した。その結果の要点を下記にまとめます。

(1) 地域の助け合いの必要性について

問9「住民同士の支え合いや助け合いの必要性」については、その必要性を感じている人が96.1%にもものぼる。10～29歳においても90%を超えており、最も低い30～49歳においても88.0%と高い。これまでの福祉教育や社会貢献活動。また平成30年西日本豪雨災害の影響があると考えられる。今後もこの意識を継続させていくための働きかけが必要である。

(2) 地域でのアンテナについて

問12「ご近所での気になる家庭」については、30.8%の人が「ある」と回答しており、地域住民へアンテナをはっている方が多いことが分かる。その内訳は、「独居高齢者」(36.8%)、「認知症の方がいる世帯」(17.4%)、「ひきこもり状態の方がいる世帯」(9.9%)と続いている。住民の方々が普段から地域の方々へ目を向けていると考えられ、これらのアンテナ網をさらに拡大していくことが必要だと思われる。

(3) 行政との協働について

問26の「知っている相談機関」は「総社市役所」が最も多く、問30の「福祉に関する情報の入手」についても「広報そうじゃ」が最も多いことから、行政が住民の重要な情報源となっていることが分かる。このことから、今後も行政との協働、情報共有などを一層強めて行く必要があると考えられる。

今後の課題については下記のとおりです。

(4) 地域活動等への参加促進

本アンケート結果では、問 14「地域活動等の参加経験」のある人が 86.2% にのぼるものの、問 17「参加したことがない理由」については、最も多いのが「仕事や家事で忙しい」(31.1%) という時間的制約に関わるものであるが、一方で「活動内容や参加する方法がわからない」(22.5%) も 2 割を占めている。このような方々へ参加可能な地域活動等の情報を効果的に伝えていくかということも課題となろう。また、同質問において「興味・関心がない」(15.4%)、「地域との関係をあまり持ちたくない」(4.3%) 方々も合計で約 2 割おられる。このような思いに至るまでには様々なプロセスがあったと思われるが、継続的かつ多様な働きかけのなかで、個々人の社会関係の構築・維持を図る必要がある。

(5) 社会的孤立の解消

問 25「不安や悩みの相談先」は、「相談する人がいない」(0.4%)、「誰にも相談するつもりはない」(0.3%) と何かあった際に社会から孤立する可能性がある人が約 1% いる。このように社会的孤立傾向のある方々への支援は困難を有するものの、地域のつながりのなかで、一人でも多くの方々の社会的孤立傾向を解消できることが求められる。

なお、本調査は、他自治体でも同様であることではあるものの、回答者のうち、60歳以上が 62.6%、居住年数 30 年以上が 63.2% となっており、長らく総社市に生活されている方が多くを占めている。総社市の住民構成も多様化していることから多様な意見を集約する仕組みを今後も継続して構築する必要がある。

4. 資料編

「地域福祉に関するアンケート調査」ご協力のお願い

総社市社会福祉協議会は、「すべての住民が 自分の住み慣れた地域で 自分らしくいきいきと 豊かに暮らせる ふれあい、助けあい、支え合いのある 住民主体の福祉コミュニティの実現」を基本方針に掲げ、地域福祉の推進に取り組んでいます。

本アンケート調査では、皆さまの地域福祉に関する意識や地域の課題などをお聴きすることで、地域福祉活動の具体的な指針を定める「総社市地域福祉活動計画」策定に向けた貴重な基礎資料として活用させていただきたいと考えております。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、これからの総社市の地域福祉を推進するため、調査へのご協力をお願いいたします。

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

【回答時間目安：15分】

1. アンケートの対象者

- ・ 総社市民
- ・ 総社市に在勤、在学の方

2. アンケートの回答について

- ・ ご回答は、お一人につき1回でお願いいたします。
- ・ ご回答者のお考えに最も近いものに○をつけてください。
- ・ 自由意見欄には、積極的なご記入をお願いいたします。
- ・ お答えにくい質問については、未回答で構いません。

3. 回答締切

- ・ 本アンケートは、11月30日（水）までにご回答ください。

4. その他

- ・ 本アンケートは、計画策定のための資料として使用させていただくものであり、すべて統計的に処理し、個人が特定されることはなく、他の目的に利用することはありません。

5. お問合せ先

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会 総務企画課

〒719-1131 総社市中央一丁目1番3号（総社市総合福祉センター内）

電話：0866-92-8555 FAX：0866-94-0089

e-mail：soumu@sojasyakyo.or.jp

1. あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。(1つだけに○)

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 回答しない

問2 あなたの年齢を教えてください。(1つだけに○)

1. 10～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳
4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳
7. 70～79歳 8. 80歳以上

問3 あなたの職業を教えてください。(1つだけに○)

1. 会社員 2. 教員・公務員 3. 農林業
4. 自営業、会社経営 5. パート、アルバイト 6. 専業主婦・主夫
7. 学生 8. 無職 9. その他

問4 あなたの世帯構成を教えてください。(1つだけに○)

1. 本人のみ(単身) 2. 夫婦のみ 3. 親子(2世代)
4. 親・子・孫(3世代) 5. その他

問5 あなたがお住まいになっている地区を教えてください。(1つだけに○)

1. 総社 2. 常盤 3. 池田 4. 清音 5. 三須
6. 服部 7. 阿曾 8. 山手 9. 秦 10. 神在
11. 久代 12. 山田 13. 新本 14. 昭和 15. 市外

問6 あなたは総社市にお住まい(通勤、通学)になられて通算何年になりますか。(1つだけに○)

1. 1年未満 2. 1～5年 3. 6～10年
4. 11～20年 5. 21～30年 6. 30年以上

2. お住まいの地域のことについて

問7 あなたが考える「地域」の範囲を教えてください。(1つだけに○)

1. 隣近所 2. 町内会・自治会の範囲 3. 小学校区
4. 中学校区 5. 総社市全体

問8 あなたとご近所の方との関係は次のどれに近いですか。(1つだけに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 困ったときに、助け合える関係 | 2. 世間話や立ち話をする程度 |
| 3. あいさつをする程度 | 4. ほとんどつきあいが無い |
| 5. まったくつきあいが無い | |

問9 あなたは、今後、住民同士の支えあいや助けあいが必要だと思いませんか。(1つだけに○)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. とても必要だと思う | 2. ある程度必要だと思う |
| 3. あまり必要だとは思わない | 4. まったく必要だとは思わない |

問10 今後、病気や加齢などで日常生活が不自由になったとき、また、子育てや介護をする必要ができたとき、ご近所づきあいの中で、手助けしてほしいと思うことはありますか。(あてはまるもの3つに○)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 話し相手 | 2. 相談ごとの相手 |
| 3. ちょっとした買い物 | 4. 外出の付き添い |
| 5. 子どもの預かり | 6. 日常での安否確認(見守りや声かけ) |
| 7. 災害時の安否確認・手助け | 8. 掃除、洗濯などの家事 |
| 9. 外出時の送迎 | 10. 電球交換や簡単な作業 |
| 11. 緊急時の看病・救急車を呼ぶなどの手助け | |
| 12. 手助けしてほしいことはない | |
| 13. その他 () | |

問11 今後、ご近所づきあいの中で、あなたが手助けできると思うことはありますか。(あてはまるもの3つに○)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 話し相手 | 2. 相談ごとの相手 |
| 3. ちょっとした買い物 | 4. 外出の付き添い |
| 5. 子どもの預かり | 6. 日常での安否確認(見守りや声かけ) |
| 7. 災害時の安否確認・手助け | 8. 掃除、洗濯などの家事 |
| 9. 外出時の送迎 | 10. 電球交換や簡単な作業 |
| 11. 緊急時の看病・救急車を呼ぶなどの手助け | |
| 12. 手助けできることはない | |
| 13. その他 () | |

問12 ご近所で、気になっているご家庭はありますか。(どちらかに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問13 問12で「1. ある」と答えた方におうかがいします。そのご家庭は、
どのような世帯であると感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 認知症の方がいる世帯 | 2. 独居高齢者世帯 |
| 3. 知的障がい者がいる世帯 | 4. 精神障がい者がいる世帯 |
| 5. 身体障がい者がいる世帯 | 6. ひきこもり状態の方がいる世帯 |
| 7. 母子・父子世帯 | 8. 子育て世帯 |
| 9. 様子はわからない | |
| 10. その他 () | |

3. 地域活動等への参加について

問14 あなたは、過去5年間に地域活動等へ参加したことがありますか。
(どちらかに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 参加したことがある | 2. 参加したことがない |
|--------------|--------------|

問15 問14で「1. 参加したことがある」と答えた方におうかがいします。
それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 町内会・自治会活動(清掃活動、防災訓練など)
2. 地域の行事(まつり、運動会、文化祭など)
3. 趣味のサークル、グループ活動
4. PTA活動や学校行事
5. ボランティア活動
6. 総社市社会福祉協議会の事業に関する活動
(ふれあいサロン、地区社会福祉協議会活動、にこにこサポーター、
ひきこもりサポーターなど)
7. その他 ()

問16 問14で「1. 参加したことがある」と答えた方におうかがいします。参加
してよかったことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 新しい仲間ができた | 2. 社会・地域とのつながりができた |
| 3. 人に喜ばれることができた | 4. 知識や技術を身につけることができた |
| 5. 自分の生きがいがあった | 6. 地域への理解・関心が深まった |
| 7. 自分の健康管理に役立った | 8. 特にない |
| 9. その他 () | |

問17 問14で「2. 参加したことがない」と答えた方におうかがいします。
参加されない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 興味・関心がない
2. 活動内容や参加する方法がわからない
3. 地域との関係をあまり持ちたくない
4. 仕事や家事で忙しい
5. 育児や家族の介護などで時間がない
6. 健康や体力に自信がない
7. 家族の理解がない
8. その他 ()

4. 地域福祉に対する意識について

問18 あなたは地域福祉^{*}に関心がありますか。(1つだけに○)

1. とても関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. 関心がない

※地域福祉とは

すべての住民が自分の住み慣れた地域で、自分らしく安心した生活を送るために、地域住民や福祉関係者がお互いに協力して地域の福祉課題の解決に取り組む考え方。

問19 あなたは地域福祉活動におけるボランティア活動の必要性を感じていますか。(1つだけに○)

1. 感じている
2. どちらともいえない
3. 感じていない

問20 あなたは民生委員・児童委員^{*}をご存じですか。(1つだけに○)

1. 活動内容を知っている
2. 名前は知っているが、活動内容は知らない
3. 名前も活動内容も知らない

※民生委員・児童委員とは

厚生労働大臣から委嘱され、地域住民の一員として、担当区域の見守りや安否確認、生活上のさまざまな相談に応じ、行政をはじめとする関係機関への「つなぎ役」を担っています。

問24 今後、地域福祉を推進するうえでどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つに○)

1. 地域住民がお互いに助け合える地域づくり
2. 世代や属性を超えて交流できる場や居場所づくり
3. 身近な相談窓口の充実
4. 属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める窓口の整備
5. 高齢者や障がい者等の入所施設の充実
6. 災害時の体制整備
7. 地域で取り組む自主防災活動
8. 地域住民への福祉意識の啓発
9. 幼少期からの福祉教育の充実
10. 地域福祉活動等への助成
11. 地域福祉に関する人材の育成
12. ボランティアやNPOなどの地域住民の自主活動の支援
13. 福祉に関する情報提供体制の整備
14. その他 ()

5. 困ったときの相談について

問25 あなたは不安や悩みごとがあるとき、誰(どこ)に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親族
2. 知人・友人
3. 近所の人
4. 民生委員・児童委員
5. 福祉委員
6. 町内会長・自治会長
7. 職場の人
8. かかりつけの医療機関
9. 総社市役所
10. 総社市社会福祉協議会
11. 学校(スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを含む)
12. 福祉サービス事業所(ケアマネジャー、ヘルパー等)
13. 相談する人がいない
14. 誰にも相談するつもりはない
15. その他 ()

地域福祉に関するアンケート調査報告書

令和5年3月 発行

発 行



社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

〒719-1131 岡山県総社市中央一丁目1番3号

電話：0866-92-8555 F A X：0866-94-0089
